

第4次館山市総合計画後期基本計画策定

館山市 市民まちづくり アンケート報告書

令和2年4月

目次

1. 調査の設計.....	1
(1) 調査の趣旨.....	1
(2) 調査の方法等.....	1
2. 調査結果.....	2
(1) 回答者プロフィール.....	2
(2) 館山市への愛着について.....	14
(3) 館山市全体について.....	18
(4) 施策への評価.....	26
(5) 館山市の防災について.....	29
(6) 近所づきあい・地域コミュニティについて.....	36
(7) 市民協働について.....	39
(8) 館山市の少子高齢化対策について.....	41
(9) 行財政改革について.....	48
(10) 広報・情報発信について.....	50
(11) 新たな時代の潮流について.....	53

1. 調査の設計

(1) 調査の趣旨

館山市の令和3年度から令和7年度の「第4次館山市総合計画後期基本計画」を策定するにあたり、現行のまちづくりへの評価や、今後のまちづくりに対する市民の意見や考えを把握することで、計画策定の際の参考とする。

(2) 調査の方法等

①調査時期	令和2年1月27日～2月28日
②調査対象	市内に居住する満16歳以上の方の中から、無作為に抽出された3,000人
③調査方法	郵送による発送・回収（無記名）
④回答結果	配布数：3,000 有効回答数：1,103 有効回答率：36.8%
⑤調査結果の見方	➤ 集計結果は各設問の標本数を100%とした百分比（%）で表示した。原則として小数点第2位を四捨五入してあるため、その結果としてこの比率の合計が100%にならない場合もある。 ➤ 1人の回答者に2つ以上の回答を認めた設問では、百分比（%）の合計は、100%を上回る場合がある。 ➤ 本文中の「n」はその設問についての有効回答数を示している。 ➤ 文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。 「SA」（Single Answer）：単一回答形式 「MA」（Multiple Answer）：複数回答形式 ➤ 本文中のグラフ、表中の選択肢表記は、見やすさに配慮するために、語句を簡略化してある場合がある。 ➤ 本文中のグラフは、見やすさに配慮し、複数のものをまとめてある場合がある。

2. 調査結果

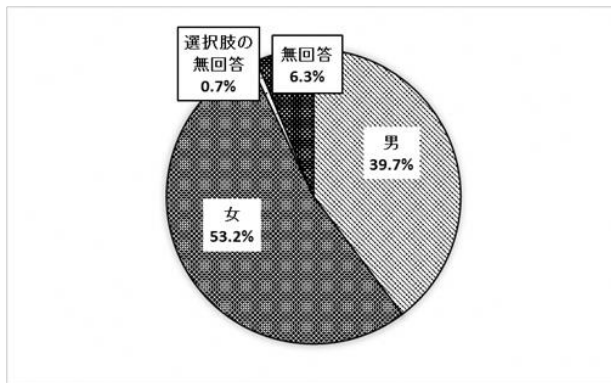
(1) 回答者プロフィール

①性別

回答者の性別は、男性が 39.7%、女性が 53.2%となり、女性が半数を超えた。

ただし、調査票配布数は、人口構成を考慮し女性に多く配布している。

(選択肢： 1. 男 2. 女 3. その他 4. 無回答)

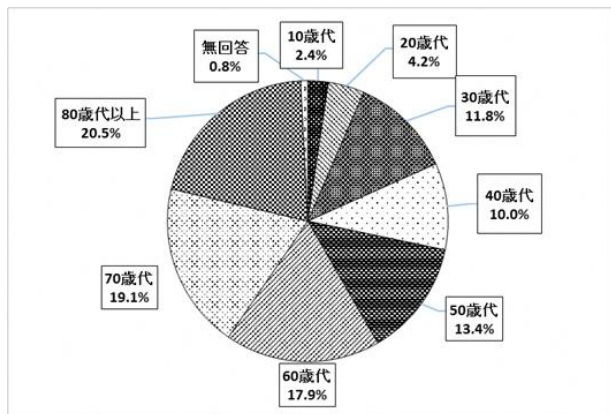


〈参考：配布率と回答率の比較〉

性別	配布率	回答率
男性	49.3%	39.7%
女性	50.7%	53.2%
その他	—	0.0%
選択肢の無回答	—	0.7%
無回答	—	6.3%

②年代

回答者の年代は、80 歳代以上が最も割合が高く 20.5%、次いで 70 歳代が 19.1%、60 歳代が 17.9%となり、60 歳代以上が半数を超えた。人口構成を考慮した配布率と比較しても、年代が上がるにつれて回答率が高くなっている。

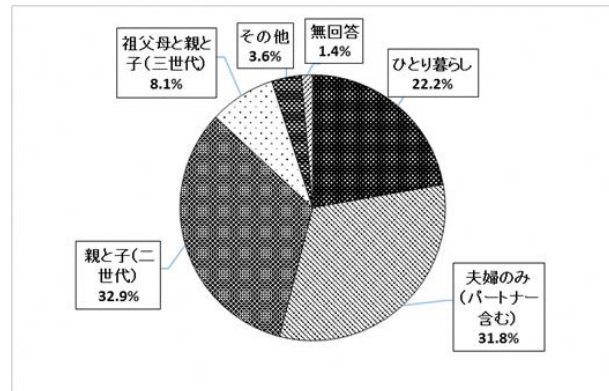


〈参考：配布率と回答率の比較〉

年代	配布率	回答率
10 歳代	4.1%	2.4%
20 歳代	10.7%	4.2%
30 歳代	14.2%	11.8%
40 歳代	14.2%	10.0%
50 歳代	14.2%	13.4%
60 歳代	14.2%	17.9%
70 歳代	14.2%	19.1%
80 歳代以上	14.2%	20.5%
無回答	—	0.8%

③家族構成

回答者の家族構成は、「親と子の二世代」が最も割合が高く 32.9%、次いで「夫婦のみ」が 31.8% となった。



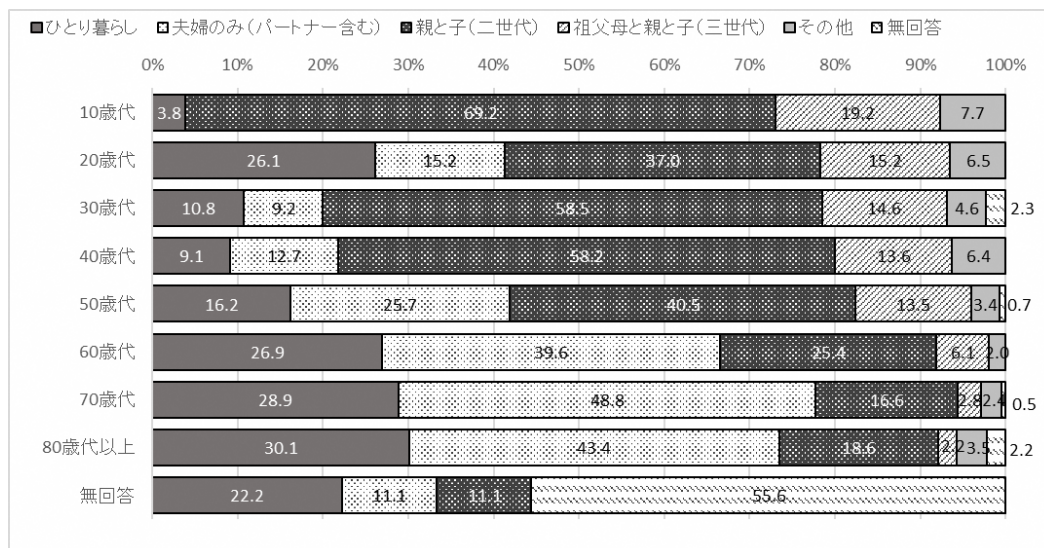
<年代別>

家族構成を年代別にみると、「ひとり暮らし」は 80 歳代以上が最も割合が高く 30.1%となっている。

また、「夫婦のみ」も 40 歳代までは 1 割程度だが、50 歳代から割合は高くなり、70 歳代では 48.8%となっている。

一方、「三世代」は 10 歳代では 2 割近くとなっているが、年代が上がるにつれて割合は低くなり、70 歳代では 2.8%、80 歳代以上では 2.2%と少ない。

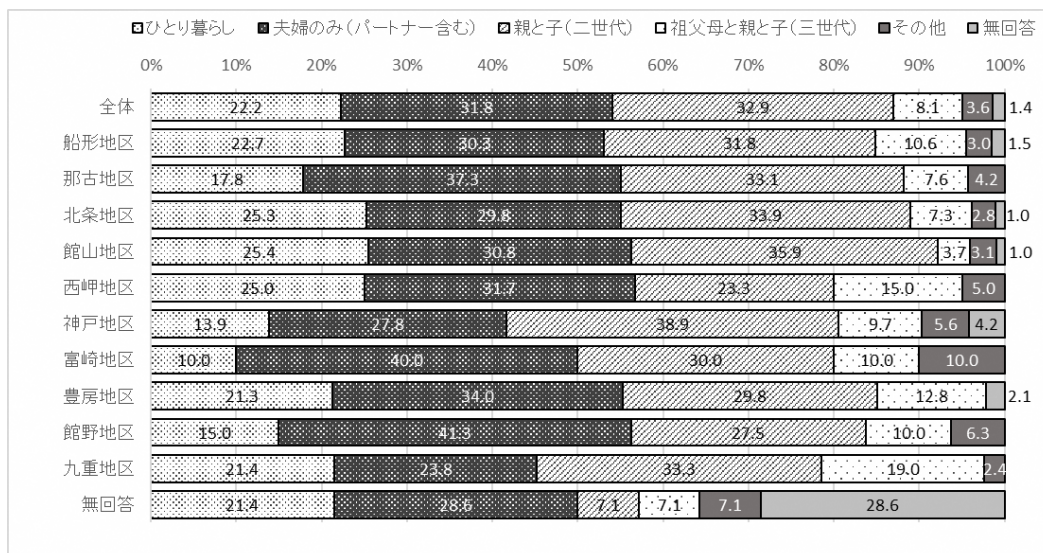
家族構成（年代別）



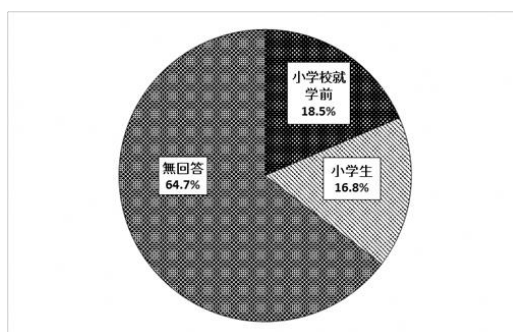
< 地域別 >

家族構成を地域別にみると、「ひとり暮らし」は北条地区、館山地区、西岬地区で割合が高く、「三世代」は九重地区や西岬地区で割合が高い。

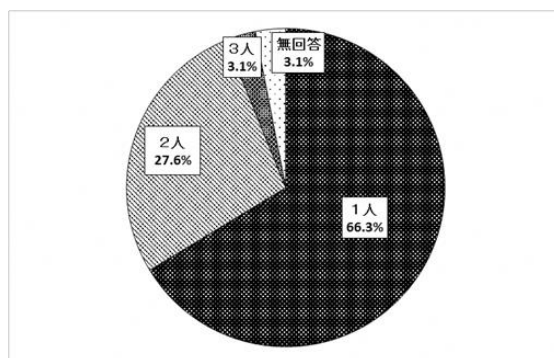
家族構成（地域別）



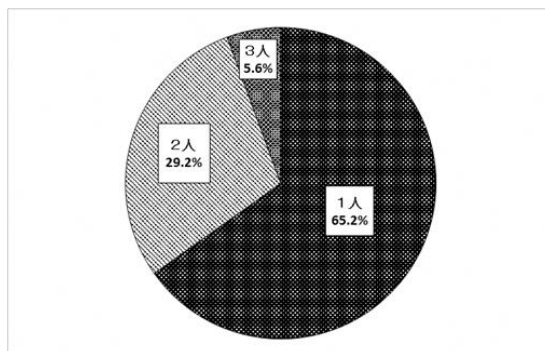
③ A. 同居する小学生以下の子ども



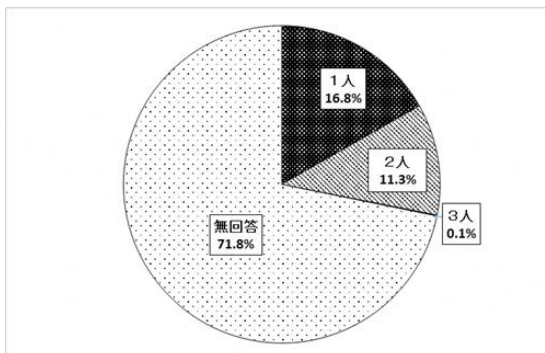
③ A - 1. 同居する小学校就学前の子どもの人数



③ A - 2. 同居する小学生の人数

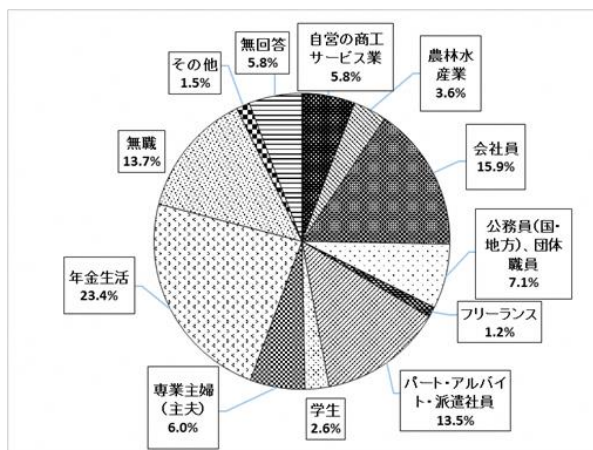


③ B. 同居する 75 歳以上の人数



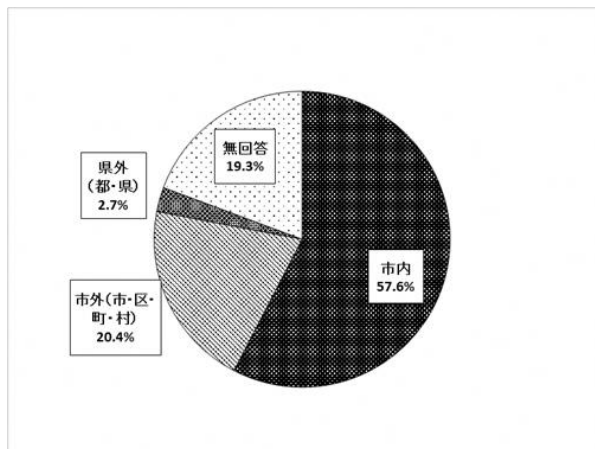
④職業

回答者の職業は、「年金生活者」が最も割合が高く 23.4%、次いで「会社員」が 15.9%、「無職」が 13.7%、「パート・アルバイト・派遣社員」が 13.5%となった。



④ A. 通勤・通学先

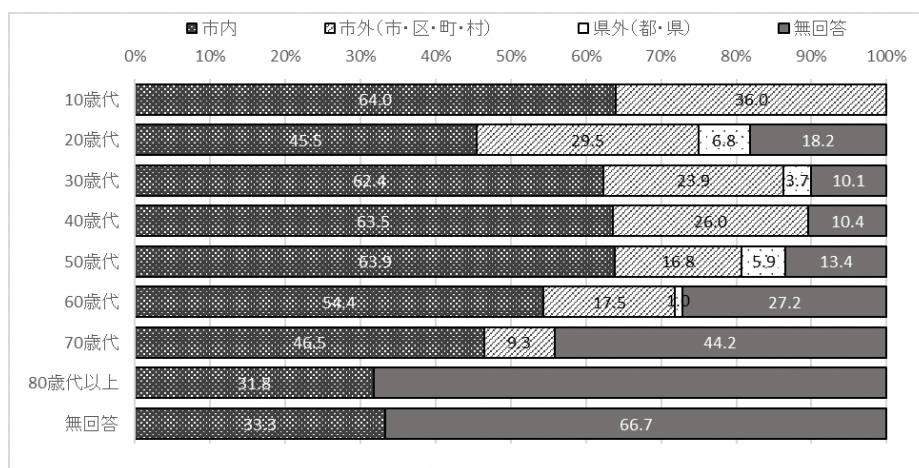
通勤・通学している回答者の通勤・通学先は、「市内」が 57.6%、「市外」が 20.4%となった。



<年代別>

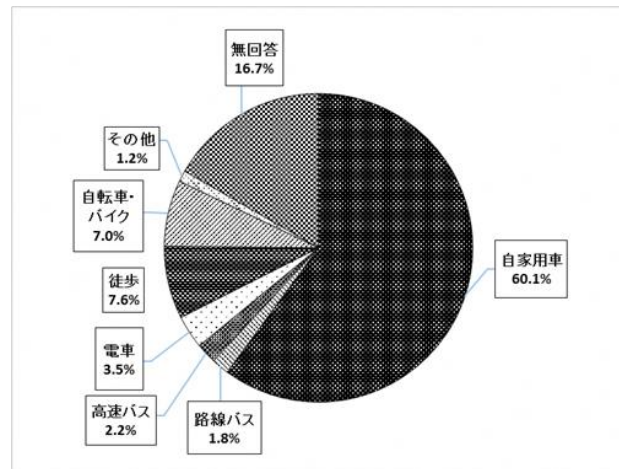
通勤・通学先を年代別にみると、「市外」と「県外」を合わせた“市外”への通勤・通学先の割合が最も高いのは 20 歳代で 36.3%、次いで 10 歳代が 36.0%、30 歳代が 27.6%と若い世代で高い割合となった。

通勤・通学先（年代別）



④B. 交通手段

通勤・通学の手段は「自家用車」(60.1%)に回答が集中しており、「電車」(3.5%)、「路線バス」(1.8%)などの公共交通利用者は少数であった。

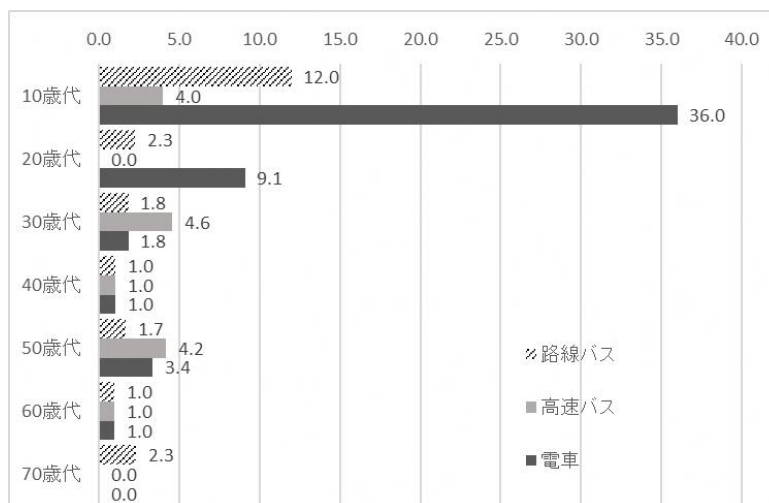


<年代別>

通勤・通学手段のうち、公共交通の利用状況を年代別にみると、10歳代では「電車」は36.0%、「路線バス」は12.0%と、他の年代に比べて利用割合が高い。

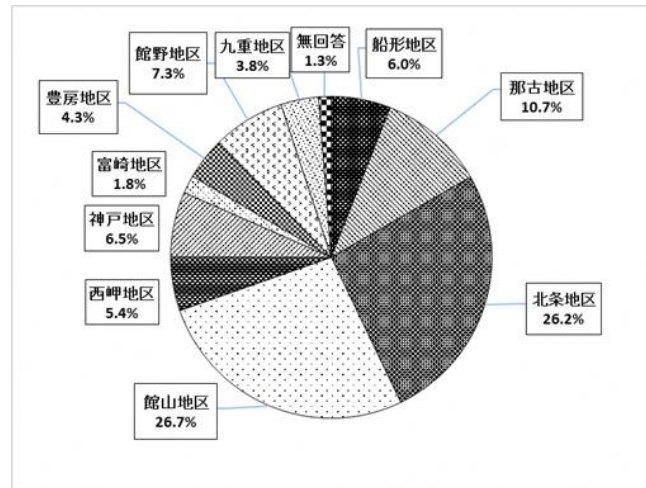
「高速バス」は全体として利用は少ないが、30歳代が4.6%、50歳代が4.2%、10歳代が4.0%となった。

通勤・通学手段（年代別：公共交通のみ）



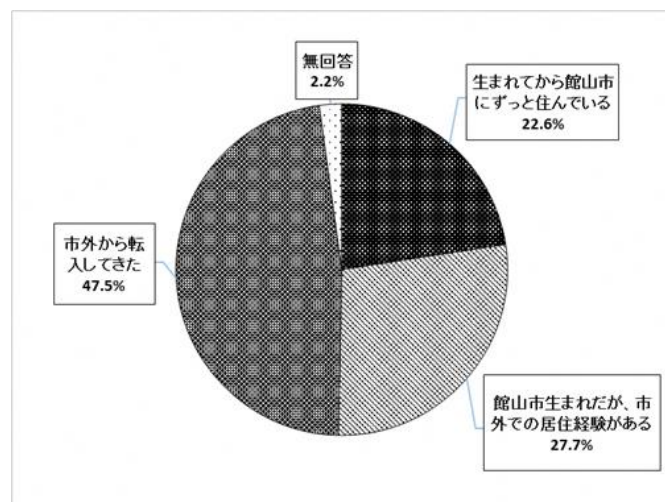
⑤居住地区

居住地区は「館山地区」が最も割合が高く 26.7%、次いで「北条地区」が 26.2%、「那古地区」が 10.7%などとなった。最も割合が低いのは「富崎地区」（1.8%）となった。



⑥居住状況

居住状況は、「市外から転入してきた」が最も割合が高く 47.5%と半数近くを占めた。また、「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」と回答した、いわゆる U ターンした者の割合は 27.7%となり、「生まれてから館山市にずっと住んでいる」（22.6%）を上回った。

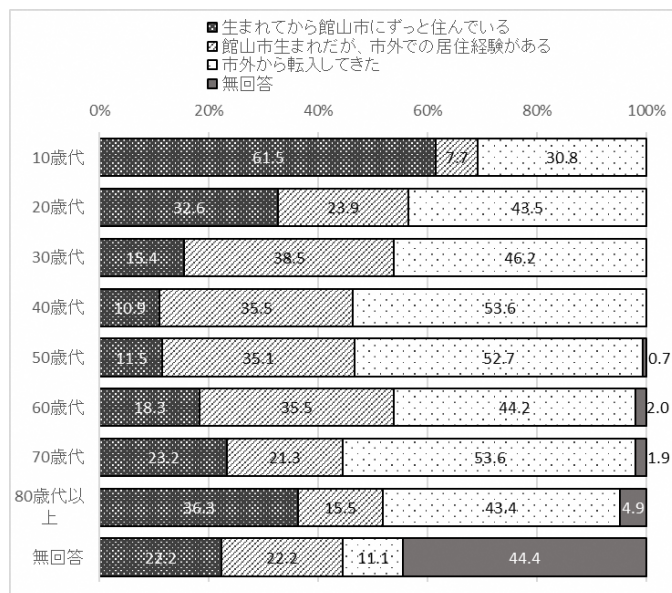


<年代別>

居住状況を年代別にみると、10 歳代では「生まれてから館山市にずっと住んでいる」が 61.5%と最も割合が高く、次いで 80 歳代以上が 36.3%となった。

「市外から転入してきた」は20歳代以上の年代で半数前後と高い割合となっている。

居住状況（年代別）



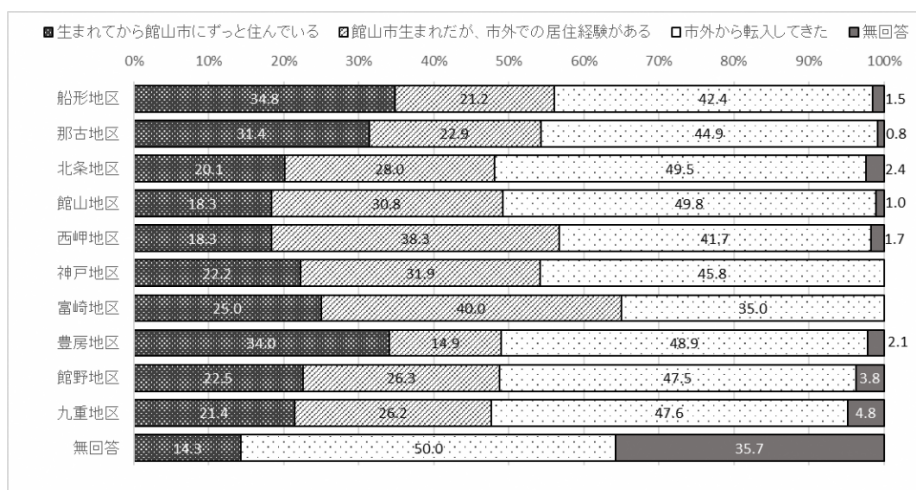
<地区別>

居住状況を地区別にみると、「生まれてから館山市にずっと住んでいる」は船形地区と豊房地区、那古地区で割合が高く、3割以上となった。

「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」は、富崎地区や西岬地区で高く、最も割合が低い豊房地区では 14.9%となった。

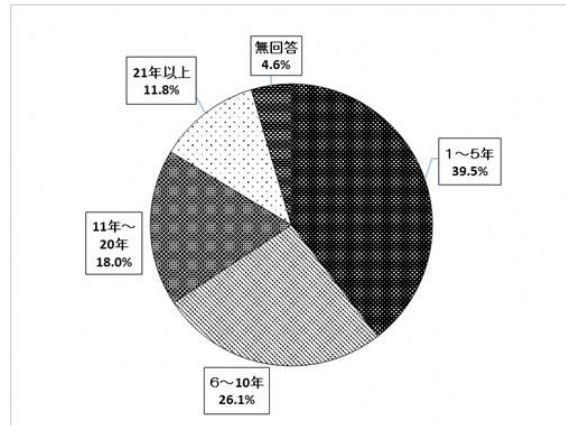
「市外から転入してきた」は、館山地区で最も割合が高く 49.8%、次いで北条地区、豊房地区などとなった。

居住状況（地区別）



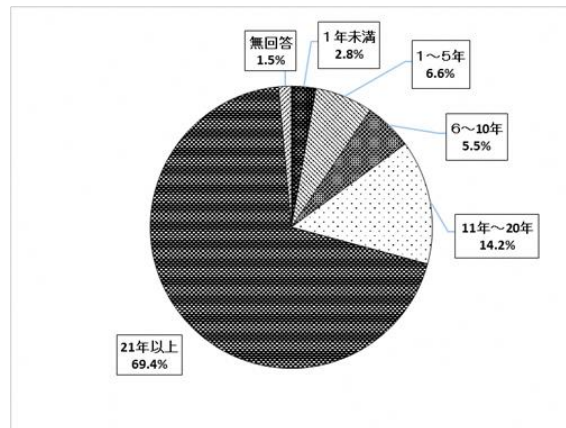
⑥居住経験年数

居住経験年数は「1～5年」が最も割合が高く、39.5%となった。



⑦居住年数

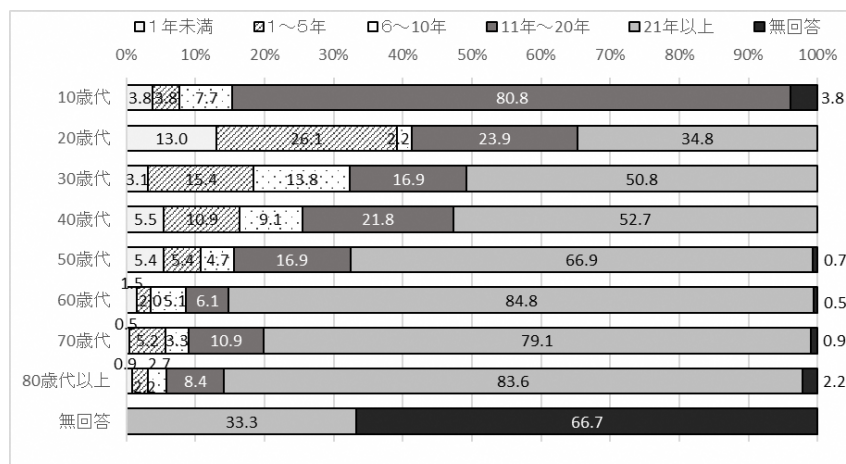
居住年数は「21年以上」が最も割合が高く 69.4%となった。



<年代別>

居住年数を年代別にみると、年齢が上がるにつれて居住年数も長くなる傾向にあるが、比較的居住年数の短い「1～5年」は20歳代で最も割合が高く 26.1%、「6～10年」は30歳代で最も割合が高く 13.8%となった。

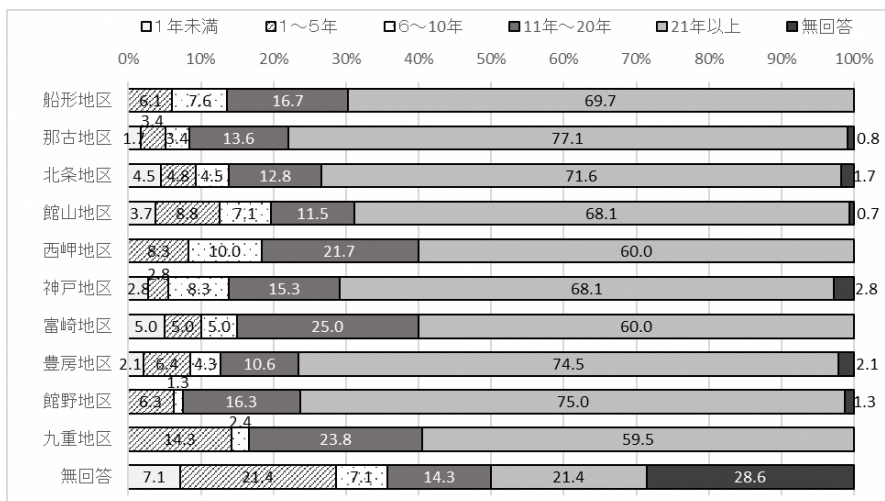
居住年数（年代別）



< 地区別 >

居住年数を地区別にみると、「1～5年」は九重地区で最も割合が高く 14.3%、次いで館山地区（8.8%）、西岬地区（8.3%）となっている。また、居住年数が 11 年以上の割合が高いのは、館野地区（91.3%）、那古地区（90.7%）で、9 割を超えた。

居住年数（地区別）



⑧転入理由

転入理由は、「結婚」が最も割合が高く 22.8%となったが、他の理由はほぼ同じくらいの割合であり、「移住」も 13.4%となった。

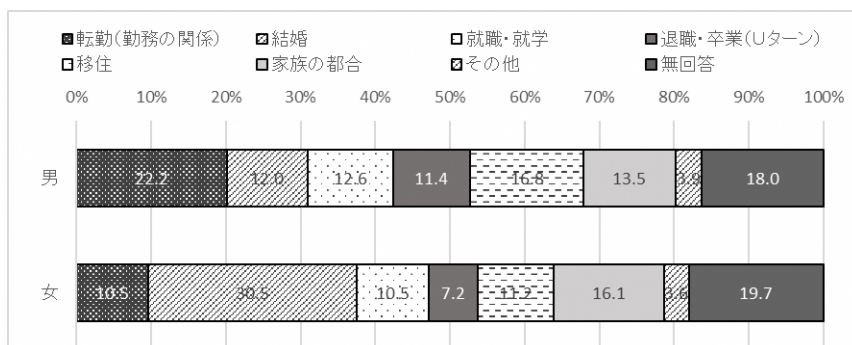


<性別>

転入理由を性別でみると、男性は「転勤」が最も割合が高く 22.2%、次いで「移住」、「家族の都合」などとなった。

女性では「結婚」が最も割合が高く 30.5%、次いで「家族の都合」、「移住」などとなった。

転入理由（性別）



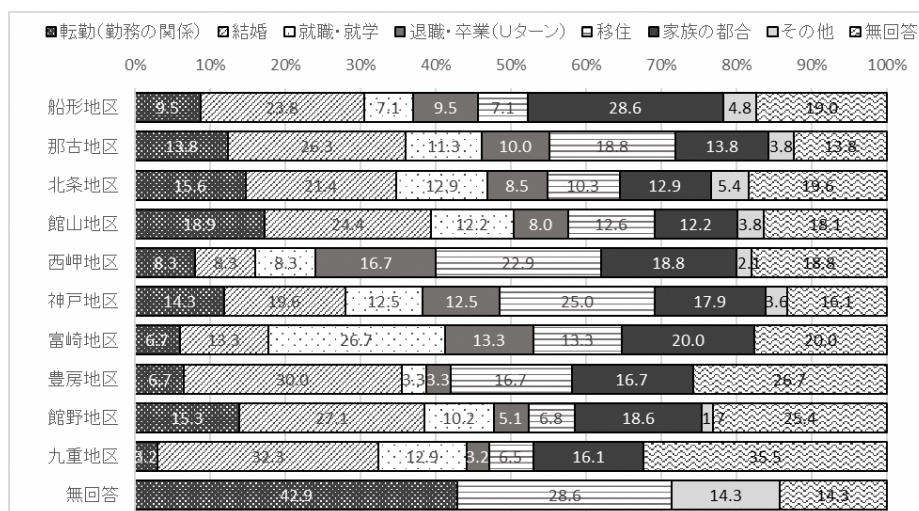
<地区別>

転入理由を地区別でみると、「転勤」は館山地区が最も割合が高く 18.9%、「結婚」は九重地区で最も高く 32.3%、次いで豊房地区、館野地区などとなった。

「移住」は神戸地区で最も高く 25.0%、次いで西岬地区（22.9%）、那古地区（18.8%）などとなった。

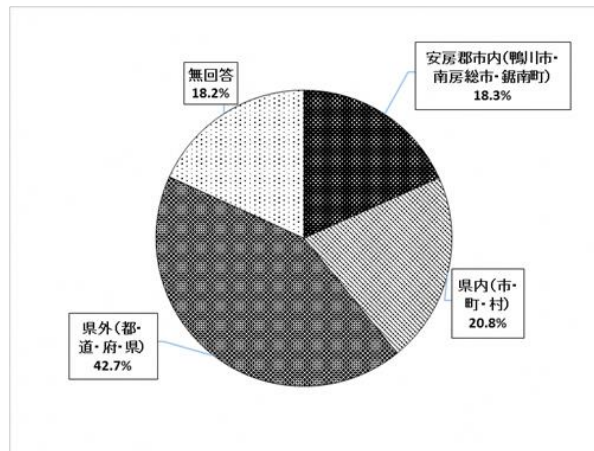
10 地区のうち「移住」の割合が 1 割を超えているのは、ほかに豊房地区（16.7%）、富崎地区（13.3%）、館山地区（12.6%）、北条地区（10.3%）を加えた 7 地区となった。

転入理由（地区別）



⑨以前に住んでいた地域

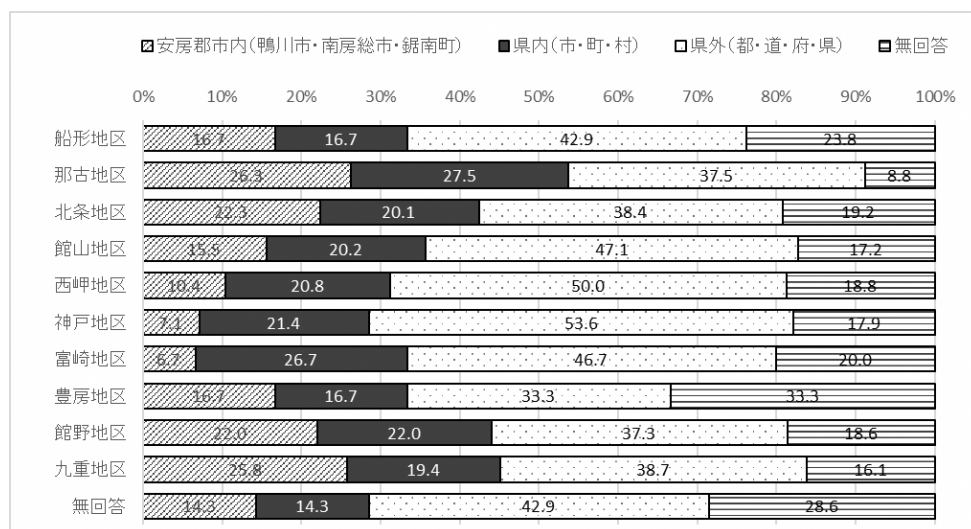
転入以前の居住地は「県外」が最も割合が高く 42.7%となり、次いで県内（20.8%）、安房郡市内（18.3%）となった。



< 地区別 >

転入以前の居住地を地区別にみると、「県外」の割合が最も高いのは神戸地区で 53.6%、次いで西岬地区で 50.0%、館山地区（47.1%）となった。

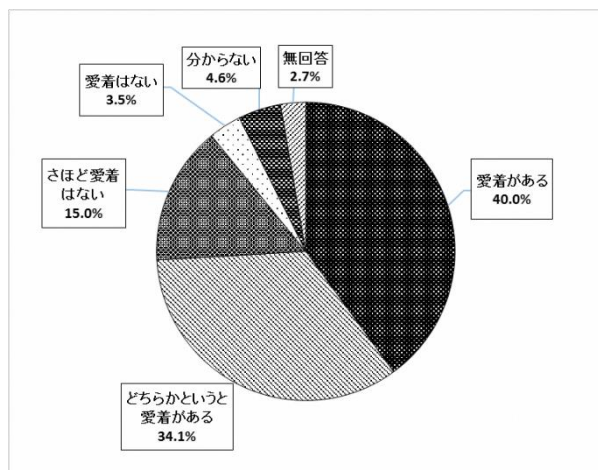
転入以前の居住地（地区別）



(2) 館山市への愛着について

問 1. 館山市への愛着、魅力度

館山市への愛着では、「愛着がある」(40.0%)、と「どちらかというとな愛着がある」(34.1%)を合わせると、「愛着がある」は 7 割を超えた。

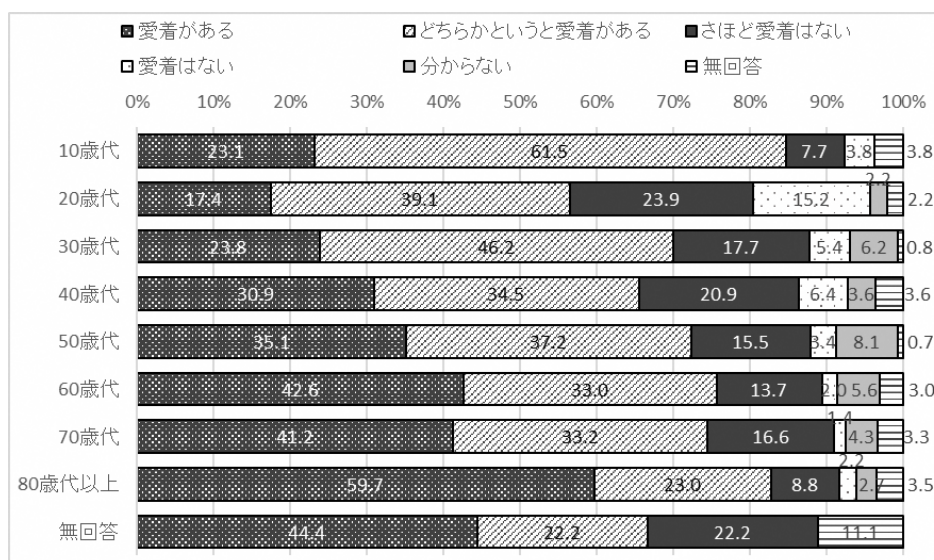


< 年代別 >

館山市への愛着を年代別にみると、「愛着がある」の割合が最も高いのは 80 歳代以上であり、年代が上がるに従って愛着を持つ割合が高まる傾向にある。

一方、「愛着はない」、「さほど愛着はない」は 20 歳代で最も割合が高く、合わせると“愛着はない”は 39.1%となった。

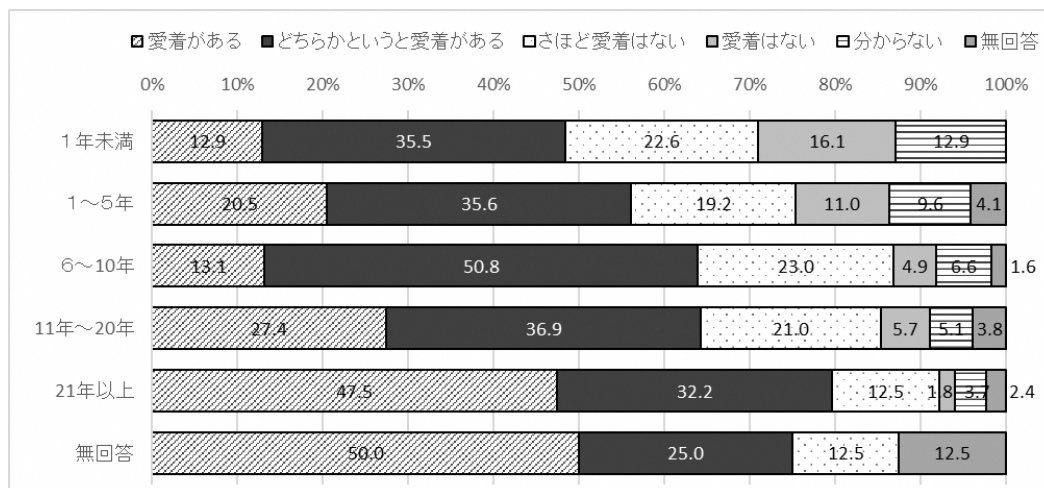
館山市への愛着（年代別）



< 居住年数別 >

館山市の愛着を、居住年数別にみると、「愛着がある」、「どちらかというとな愛着がある」を合わせた“愛着がある”の割合は、居住年数が長くなるほど高いことがわかる。

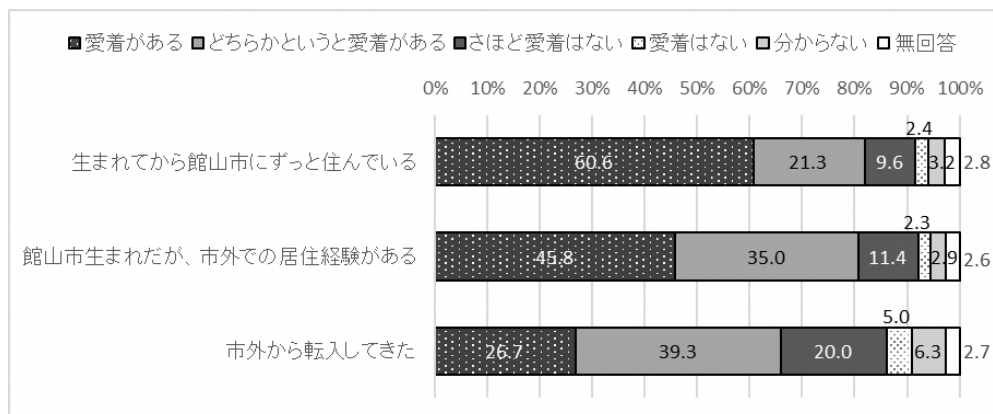
館山市への愛着（居住年数別）



< 居住状況別 >

館山市の愛着を、居住状況別にみると、「生まれてから館山市にずっと住んでいる」や「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」では、“愛着がある”と回答した割合は8割を超えており、館山市生まれの市民の愛着度が高いことがわかる。

館山市への愛着（居住状況別）



問2. 「郷土の誇り」や「おすすめしたいもの」など

1. 来訪者に自慢したい素敵な場所や風景

「海（海岸・鏡ヶ浦）」が45.1%と突出して多く、「夕日」が12.1%で続く。

1. 来訪者に自慢したい素敵な場所や風景	回答割合 (%)
海（海岸・鏡ヶ浦）	45.1
夕日	12.1
富士山	7.9
城山（館山城）	6.2
その他	3.1
崖観音	2.9
花	2.9
沖ノ島	2.5
平砂浦	1.6
フラワーライン	1.2
ウミホテル	0.9
マキの生垣	0.8
南欧風の街並み	0.3
無回答	12.5

2. 館山市の食べ物・お土産でおすすめしたいもの

「海産物（魚・刺身）」が42.1%と突出して多く、「びわ」が12.1%で続く。

2. 館山市の食べ物・お土産でおすすめしたいもの	構成比 (%)
海産物（魚・刺身）	42.1
びわ	12.1
いちご	9.7
寿司	7.4
さんが焼・なめろう	6.3
落花生	5.2
その他	3.0
野菜	2.3
無回答	12.0

3. 対外的にPRしたいイベント・行事

「花火大会」が45.2%と突出して多く、次いで「やわたんまち」（18.2%）、「南総里見まつり」（10.7%）、「若潮マラソン」（10.6%）が続く。

3. 対外的にPRしたいイベント・行事	構成比 (%)
花火大会	45.2
やわたんまち	18.2
南総里見まつり	10.7
若潮マラソン	10.6
フラメンコ	1.8
その他	3.8
無回答	9.6

4. 館山市ならではの歴史・文化・芸術

「里見氏・八犬伝」が32.7%で最も多く、次いで「地域の祭り」が22.1%となっている。

4. 館山市ならではの歴史・文化・芸術	構成比 (%)
里見氏・八犬伝	32.7
地域の祭り	22.1
房州うちわ	9.1
城山	8.2
神社仏閣	6.0
戦争遺跡	4.6
その他	3.3
青木繁（海の幸）	2.4
無回答	11.6

5. 館山市が誇れる著名人

「XJAPANのYOSHIKIとToshi」が55.6%と突出して多く、続く「さかなクン」(23.1%)と合わせると8割近くを占める。

5. 館山市が誇れる著名人	構成比 (%)
XJAPANのYOSHIKIとToshi	55.6
さかなクン	23.1
島田順子	2.7
その他	2.6
福原有信	2.1
中沢けい	0.3
無回答	13.6

6. 館山市で楽しめるおすすめの趣味・スポーツ

「マリンスポーツ」が30.4%で最も多く、次いで「釣り」が22.8%となっている。

6. 館山市で楽しめるおすすめの趣味・スポーツ	構成比 (%)
マリンスポーツ	30.4
釣り	22.8
サイクリング	9.6
ランニング	7.2
ゴルフ	6.6
その他	4.6
ビーチコーミング	2.9
トライアスロン	2.4
無回答	13.5

(3) 館山市全体について

問3. 館山市が住みやすいと思う点

館山市の住みやすい点では、「自然に恵まれている」が最も割合が高く74.0%、次いで「気候が良い」が67.1%、「長年住み慣れている」が42.8%などとなった。上位には自然に関する項目が多い一方、下位にはインフラや施設など利便性に関する項目が多い。



<年代別>

住みやすい点を年代別にみると、上位3項目は年代によって大きな違いはみられないが、「食材が豊富、食べ物がおいしい」、「お祭り・イベントが魅力的である」が10歳代で50.0%と、他の世代より割合が高い。

住みやすい点（年代別：上位）

	50%以上			40%台	30%台			20%台		
全体	自然に恵まれている	気候が良い		長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい	治安が良い		車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である	
	74.0	67.1		42.8	38.5	32.6		27.5	25.0	
10歳代	自然に恵まれている	食材が豊富、食べ物がおいしい	お祭り・イベントが魅力的である	気候が良い	長年住み慣れている			人々が親切で人情に厚い	治安が良い	
	76.9	50.0	50.0	46.2	34.6			23.1	23.1	
20歳代	自然に恵まれている			気候が良い	お祭り・イベントが魅力的である	長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい	治安が良い		
	60.9			43.5	39.1	34.8	32.6	28.3		
30歳代	自然に恵まれている	気候が良い			長年住み慣れている	治安が良い	食材が豊富、食べ物がおいしい	車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である	人々が親切で人情に厚い
	76.2	58.5			38.5	38.5	34.6	29.2	24.6	23.1
40歳代	自然に恵まれている			気候が良い	長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい	車で自由に移動できる	治安が良い	お祭り・イベントが魅力的である	
	73.6			49.1	37.3	35.5	30.9	27.3	21.8	
50歳代	自然に恵まれている	気候が良い			長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい	治安が良い	車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である	
	76.4	70.9			38.5	35.8	31.1	25.0	23.6	
60歳代	自然に恵まれている	気候が良い		長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい	治安が良い	車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である		
	79.7	75.1		47.2	41.1	31.5	31.0	20.8		
70歳代	自然に恵まれている	気候が良い		長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい	治安が良い		車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である	
	73.5	69.2		44.1	39.8	38.4		29.9	25.6	
80歳代以上	気候が良い	自然に恵まれている		長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい	治安が良い		車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である	買い物などの日常生活が便利
	77.9	69.5		48.7	41.2	31.4		25.7	25.2	23.0
無回答	自然に恵まれている				長年住み慣れている	気候が良い		食材が豊富、食べ物がおいしい	文化施設・スポーツ施設などが充実している	お祭り・イベントが魅力的である
	66.7				33.3	33.3		22.2	22.2	22.2

<地区別>

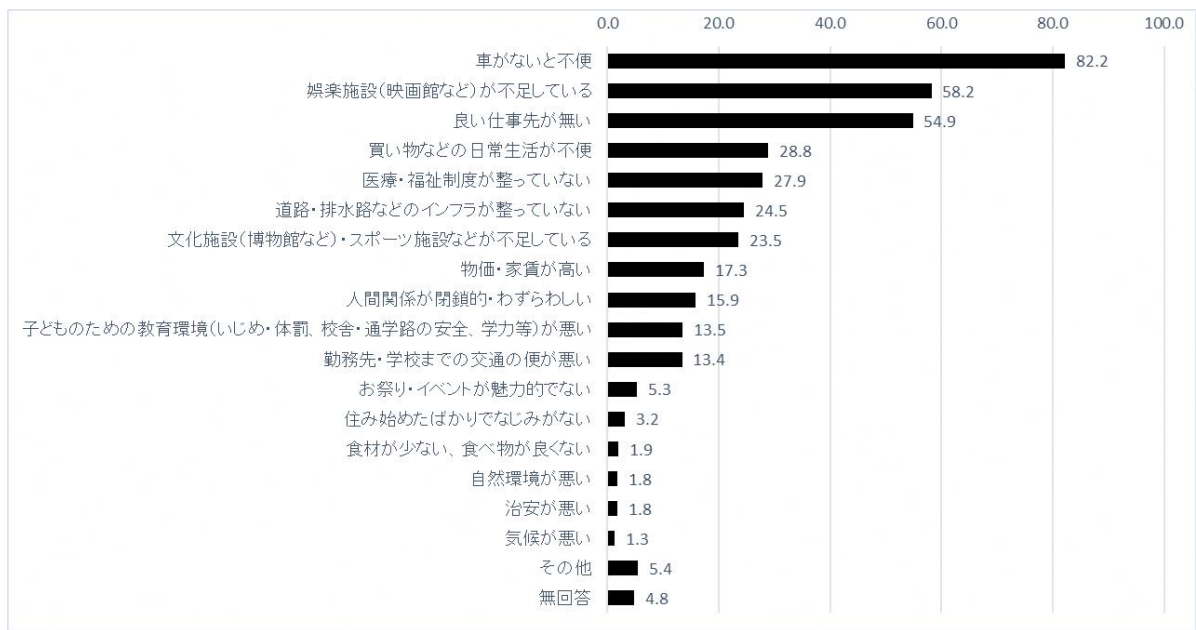
住みやすい点を地区別にみると、富崎地区では「人々が親切で人情に厚い」、「治安が良い」が50.0%、また九重地区では「食材が豊富、食べ物おいしい」が50.0%と他の地区よりも高くなっている。

住みやすい点（地区別：上位）

	50%以上				40%台	30%台	20%台			
全体	自然に恵まれている	気候が良い			長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物おいしい	治安が良い	車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である	
	74.0	67.1			42.8	38.5	32.6	27.5	25.0	
船形地区	気候が良い	自然に恵まれている	長年住み慣れている		食材が豊富、食べ物おいしい	治安が良い	お祭り・イベントが魅力的である	車で自由に移動できる		
	74.2	72.7	54.5		40.9	34.8	31.8	21.2		
那古地区	自然に恵まれている	気候が良い			食材が豊富、食べ物おいしい	長年住み慣れている	治安が良い	車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である	
	72.0	68.6			49.2	48.3	30.5	28.8	22.0	
北条地区	自然に恵まれている	気候が良い			長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物おいしい	治安が良い	車で自由に移動できる	買い物などの日常生活が便利	お祭り・イベントが魅力的である
	72.7	61.9			45.3	33.6	31.1	28.7	24.9	
館山地区	自然に恵まれている	気候が良い			長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物おいしい	治安が良い	お祭り・イベントが魅力的である	車で自由に移動できる	
	72.2	67.1			40.7	36.9	31.2	27.8	25.1	
西岬地区	自然に恵まれている	気候が良い			治安が良い	長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物おいしい	お祭り・イベントが魅力的である	車で自由に移動できる	人々が親切で人情に厚い
	83.3	60.0			41.7	33.3	33.3	28.3	26.7	25.0
神戸地区	自然に恵まれている	気候が良い			長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物おいしい	治安が良い	車で自由に移動できる	人々が親切で人情に厚い	お祭り・イベントが魅力的である
	81.9	77.8			41.7	40.3	37.5	27.8	26.4	25.0
富崎地区	自然に恵まれている	気候が良い	長年住み慣れている	人々が親切で人情に厚い	治安が良い	食材が豊富、食べ物おいしい	車で自由に移動できる	お祭り・イベントが魅力的である		
	90.0	75.0	50.0	50.0	50.0	35.0	30.0	20.0		
豊房地区	気候が良い	自然に恵まれている	長年住み慣れている		食材が豊富、食べ物おいしい	治安が良い	車で自由に移動できる	人々が親切で人情に厚い	お祭り・イベントが魅力的である	
	80.9	68.1	53.2		44.7	42.6	36.2	25.5	25.5	
館野地区	自然に恵まれている	気候が良い			食材が豊富、食べ物おいしい	長年住み慣れている	車で自由に移動できる	治安が良い	買い物などの日常生活が便利	お祭り・イベントが魅力的である
	77.5	67.5			43.8	37.5	33.8	28.8	21.3	20.0
九重地区	自然に恵まれている	気候が良い	食材が豊富、食べ物おいしい			治安が良い	長年住み慣れている	車で自由に移動できる	人々が親切で人情に厚い	医療や福祉制度が充実している
	78.6	69.0	50.0			31.0		26.2	26.2	23.8
無回答					自然に恵まれている	気候が良い		買い物などの日常生活が便利		
					42.9	35.7		21.4		

問3. 館山市が住みにくいと思う点

館山市の住みにくい点では、「車がないと不便」が最も割合が高く82.2%、次いで「娯楽施設（映画館など）が不足している」が58.2%、「よい仕事先がない」が54.9%となっている。



<年代別>

住みにくい点を年代別にみると、「買い物などの日常生活が不便」が70歳代、80歳代以上で3割を超え、「医療・福祉制度が整っていない」が30歳代、50歳代、60歳代で3割を超えてほかの年代より高くなっている。

住みにくい点（年代別：上位）

	50%以上			40%台	30%台			20%台				
全体	車がないと不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い					買い物などの日常生活が不便	医療・福祉制度が整っていない	道路・排水路などのインフラが整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している	
	82.2	58.2	54.9					28.8	27.9	24.5	23.5	
10歳代	車がないと不便	娯楽施設（映画館など）が不足している			良い仕事先が無い	勤務先・学校までの交通の便が悪い		買い物などの日常生活が不便	文化施設・スポーツ施設などが不足している			
	88.5	84.6			34.6	34.6		26.9	26.9			
20歳代	車がないと不便	娯楽施設（映画館など）が不足している		良い仕事先が無い	文化施設・スポーツ施設などが不足している			買い物などの日常生活が不便				
	84.8	73.9		47.8	30.4			21.7				
30歳代	車がないと不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い		医療・福祉制度が整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している		子どものための教育環境が悪い	買い物などの日常生活が不便			
	76.9	69.2	53.1		36.2	30.8		29.2	26.9			
40歳代	車がないと不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い					文化施設・スポーツ施設などが不足している	医療・福祉制度が整っていない	子どものための教育環境が悪い	物価・家賃が高い	勤務先・学校までの交通の便が悪い
	78.2	61.8	52.7					29.1	27.3	24.5	22.7	20.0
50歳代	車がないと不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い		医療・福祉制度が整っていない			道路・排水路などのインフラが整っていない	買い物などの日常生活が不便			
	86.5	70.9	62.2		35.1			27.7	23.6			
60歳代	車がないと不便	良い仕事先が無い	娯楽施設（映画館など）が不足している		医療・福祉制度が整っていない			買い物などの日常生活が不便	道路・排水路などのインフラが整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している	物価・家賃が高い	
	86.3	62.4	56.3		33.0			27.9	25.9	25.4	21.8	
70歳代	車がないと不便	良い仕事先が無い		娯楽施設（映画館など）が不足している	買い物などの日常生活が不便	道路・排水路などのインフラが整っていない		医療・福祉制度が整っていない	物価・家賃が高い			
	82.9	51.2		48.3	33.2	31.8		24.6	20.4			
80歳代以上	車がないと不便	良い仕事先が無い		娯楽施設（映画館など）が不足している	買い物などの日常生活が不便			道路・排水路などのインフラが整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している	医療・福祉制度が整っていない		
	79.6	53.1		46.5	37.2			26.5	22.1	22.1		
無回答	車がないと不便	娯楽施設（映画館など）が不足している		良い仕事先が無い				物価・家賃が高い	道路・排水路などのインフラが整っていない			
	66.7	55.6		44.4				22.2	22.2			

<地区別>

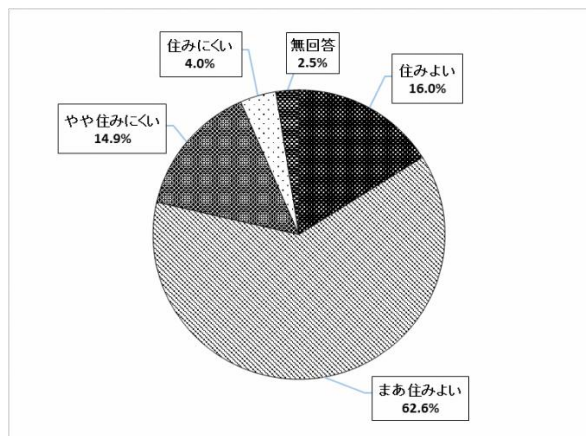
住みにくい点を地区別でみると「買い物などの日常生活が不便」が西岬地区、富崎地区で 5 割を超え、他の地区よりも高くなっている。

住みにくい点（地区別：上位）

	50%以上			40%台	30%台			20%台			
全体	車がなくて不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い					買い物などの日常生活が不便	医療・福祉制度が整っていない	道路・排水路などのインフラが整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している
	82.2	58.2	54.9					28.8	27.9	24.5	23.5
船形地区	車がなくて不便	良い仕事先が無い	娯楽施設（映画館など）が不足している		買い物などの日常生活が不便			医療・福祉制度が整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している		
	84.8	62.1	51.5		36.4			25.8	21.2		
那古地区	車がなくて不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い		買い物などの日常生活が不便	医療・福祉制度が整っていない		道路・排水路などのインフラが整っていない			
	82.2	59.3	55.1		33.1	33.1		22.0			
北条地区	車がなくて不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い		文化施設・スポーツ施設などが不足している			医療・福祉制度が整っていない			
	75.8	61.9	56.1		30.1			28.0			
館山地区	車がなくて不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い					買い物などの日常生活が不便	医療・福祉制度が整っていない	道路・排水路などのインフラが整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している
	82.7	59.7	53.9					29.2	27.8	26.4	21.7
西岬地区	車がなくて不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	買い物などの日常生活が不便	良い仕事先が無い	道路・排水路などのインフラが整っていない	医療・福祉制度が整っていない		文化施設・スポーツ施設などが不足している			
	90.0	61.7	58.3	41.7	33.3	30.0		20.0			
神戸地区	車がなくて不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	良い仕事先が無い		買い物などの日常生活が不便	医療・福祉制度が整っていない		勤務先・学校までの交通の便が悪い			
	88.9	59.7	54.2	41.7	34.7	30.6		23.6			
富崎地区	車がなくて不便	良い仕事先が無い	買い物などの日常生活が不便	娯楽施設（映画館など）が不足している	文化施設・スポーツ施設などが不足している			医療・福祉制度が整っていない	物価・家賃が高い	人間関係が閉鎖的・わずらわしい	
	95.0	65.0	55.0	50.0	30.0			25.0	20.0	20.0	
豊房地区	車がなくて不便	良い仕事先が無い			娯楽施設（映画館など）が不足している	買い物などの日常生活が不便		医療・福祉制度が整っていない	道路・排水路などのインフラが整っていない		
	97.9	57.4			48.9	38.3		23.4	23.4		
館野地区	車がなくて不便	良い仕事先が無い	娯楽施設（映画館など）が不足している		医療・福祉制度が整っていない			道路・排水路などのインフラが整っていない	文化施設・スポーツ施設などが不足している		
	82.5	62.5	58.8		32.5			27.5	23.8		
九重地区	車がなくて不便	良い仕事先が無い			娯楽施設（映画館など）が不足している	道路・排水路などのインフラが整っていない	勤務先・学校までの交通の便が悪い	買い物などの日常生活が不便	医療・福祉制度が整っていない		
	78.6	50.0			42.9	35.7	33.3	28.6	21.4		
無回答	車がなくて不便				娯楽施設（映画館など）が不足している			道路・排水路などのインフラが整っていない	良い仕事先が無い	物価・家賃が高い	
	64.3				35.7			28.6	21.4	21.4	

問4．館山市の住みやすさについて

館山市の住みやすさでは、「住みよい」は 16.0%、「まあ住みよい」は 62.6%となり、両者を合わせた“住みよい”は 8 割弱となった。

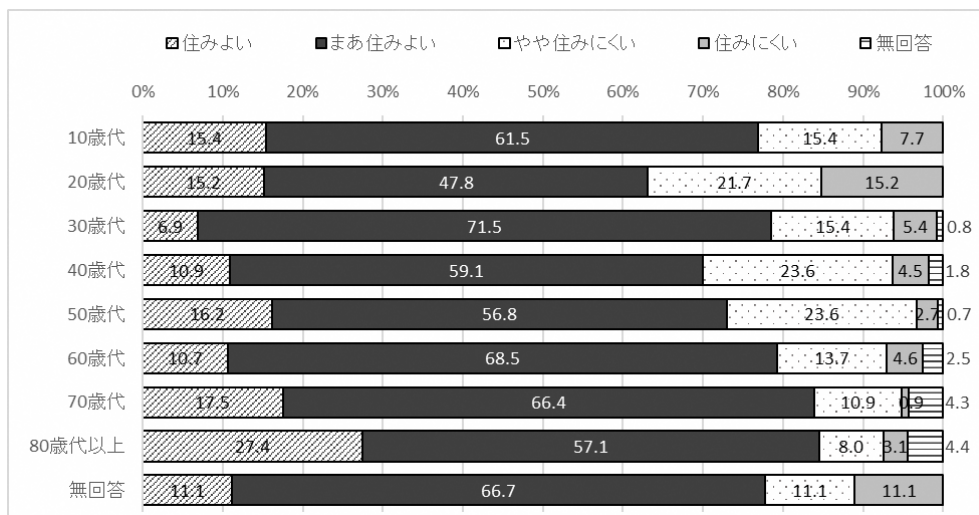


<年代別>

住み心地を年代別にみると、「住みよい」が最も高いのは80歳代以上で、「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせた割合は、若い世代になるほど減少するが、10歳代では「住みよい」が15.4%と4番目に高く、30歳代では「まあ住みよい」が71.5%とどの年代よりも高い割合となっている。

「やや住みにくい」は40歳代、50歳代で23.6%、「住みにくい」は20歳代で15.2%と最も高くなっている。

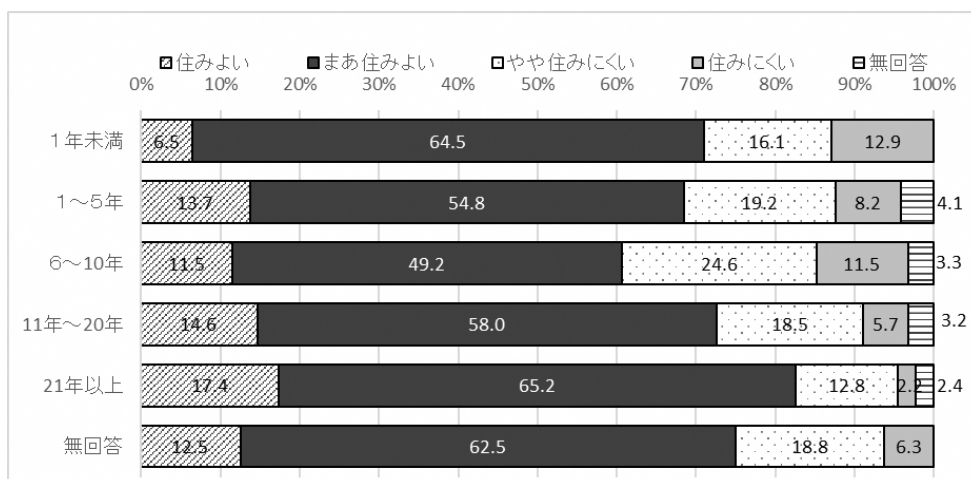
住み心地（年代別）



<居住年数別>

住み心地を居住年数別にみると、「住みよい」が最も高いのは「21年以上」で、17.4%となり、「まあ住みよい」を合わせた「住みよい」も「21年以上」で最も高くなった。

住み心地（居住年数別）

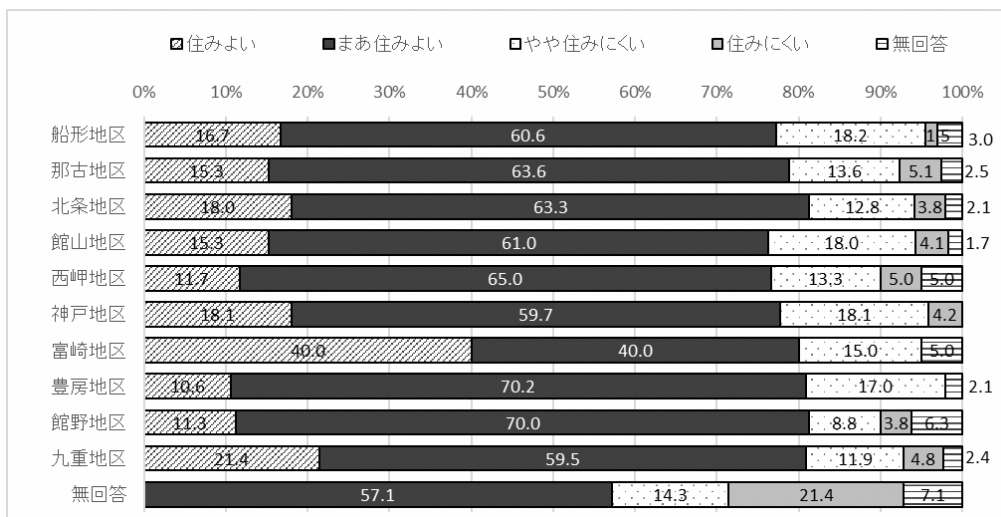


<地区別>

住み心地を地区別にみると、「住みよい」が最も高いのは富崎地区（40.0%）、次いで九重地区（21.4%）となっている。

「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた“住みにくい”は神戸地区（22.3%）、館山地区（22.1%）で高かった。

住み心地（地区別）

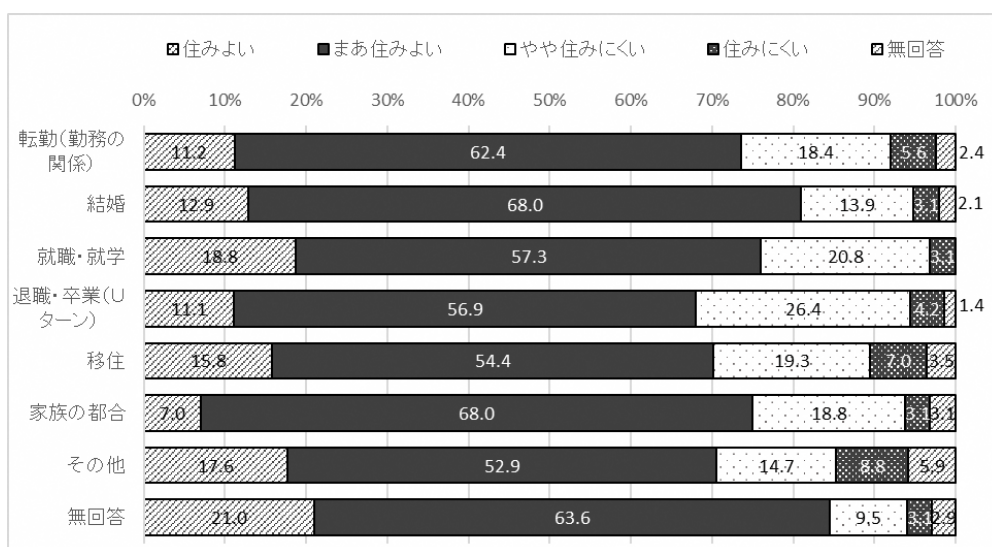


<転入理由別>

住み心地を転入理由別にみると、「住みよい」の割合が最も高いのは「就職・就学」で18.8%と他に比べて高い割合となったが、“住みよい”は「結婚」が最も割合が高くなった。

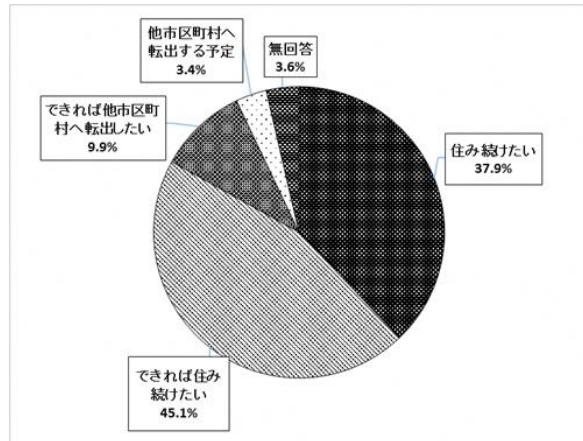
一方、“住みにくい”は「退職・卒業（Ｕターン）」が最も割合が高く 30.6%、次いで「移住」が26.3%となっている。

住み心地（転入理由別）



問5. これからの館山市への居住意向

居住意向では、「住み続けたい」(37.9%)と「できれば住み続けたい」(45.1%)を合わせると、「住み続けたい」は8割を超えた。



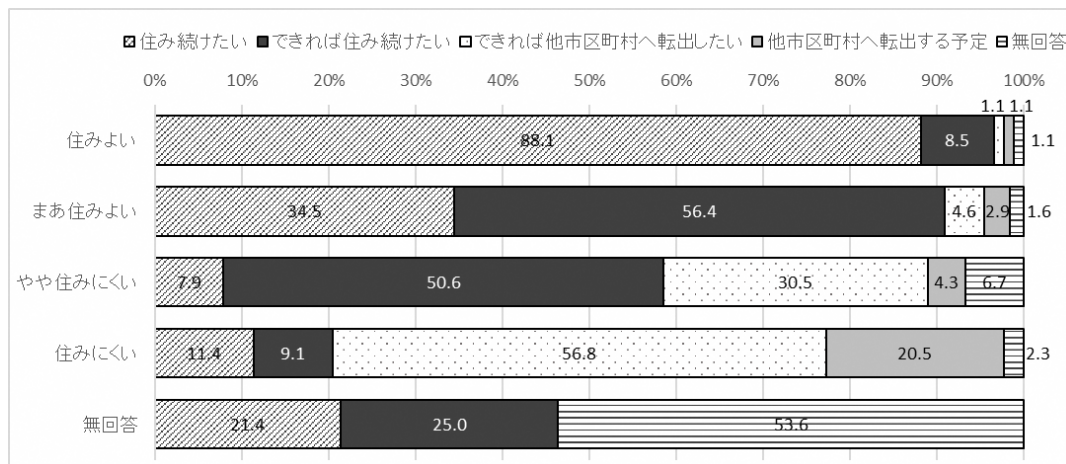
<住み心地別>

居住意向を住み心地別にみると、「住みよい」ではでは9割近くが「住み続けたい」と回答しているが、「まあ住みよい」では「できれば住み続けたい」が半数以上を占める。

「やや住みにくい」では「住み続けたい」が7.9%まで減少するものの、「できれば住み続けたい」は半数を占めている。

「住みにくい」では、「できれば他市区町村へ転出したい」が5割を超える。

居住意向（住み心地別）



(4) 施策への評価

問 6. 36 の施策に対する評価

①満足度

36 の施策の満足度を指数化して比較すると、最も満足の高い施策は「消防・救急の充実」で、「スポーツの振興によるまちづくり」、「歴史の継承と文化の振興」、「交通安全・防犯体制の強化」、「生涯学習の推進」が続いている。

一方、満足度の低い施策は「新たな雇用の創出と就業支援の強化」で、「交通体系の充実」、「道路環境の充実と河川整備の促進」、「住環境の充実と市街地の利便性向上」、「戦略的な行財政運営」が続いている。

※指数化：満足＝2点、やや満足＝1点、やや不満＝－1点、不満＝－2点とし、回答者数で除して指数化

【満足度】

順位	施策名	満足度(指数)
1	消防・救急の充実	0.23
2	スポーツの振興によるまちづくり	0.10
3	歴史の継承と文化の振興	0.09
4	交通安全・防犯体制の強化	0.08
5	生涯学習の推進	0.05
6	地域コミュニティ活動の推進	0.05
7	健康づくりの推進	0.04
8	子育て環境の充実	0.03
9	青少年の健全育成強化	0.01
10	自然環境の保全と景観形成の促進	-0.01
11	国際交流・地域間交流の促進	-0.02
12	消費者保護対策の推進	-0.03
13	環境・衛生対策の充実	-0.04
14	市民参画の促進	-0.06
15	学校教育の充実	-0.06
16	男女共同参画の推進	-0.06
17	保健・医療体制の充実	-0.09
18	障害者福祉の充実	-0.10
19	地域福祉の推進	-0.12
20	農水産業の振興	-0.13
21	高齢者福祉の充実	-0.13
22	観光の振興	-0.14
23	資源循環型社会の構築	-0.16
24	防災体制の強化	-0.18
25	広域行政の推進	-0.18
26	情報発信力の強化	-0.18
27	交流拠点施設を核とした地域活性化	-0.21
28	移住・定住の促進	-0.22
29	公園の機能充実と緑化の推進	-0.25
30	低所得者福祉の充実	-0.25
31	商工業の振興	-0.35
32	戦略的な行財政運営	-0.35
33	住環境の充実と市街地の利便性向上	-0.38
34	道路環境の充実と河川整備の促進	-0.43
35	交通体系の充実	-0.63
36	新たな雇用の創出と就業支援の強化	-0.64

②重要度

36 の施策の重要度を指数化して比較すると、最も重要な高い施策は「新たな雇用の創出と就業支援の強化」で、「防災体制の強化」、「子育て環境の充実」、「保健・医療体制の充実」、「消防・救急の充実」が続いている。

一方、重要度の低い施策は「男女共同参画の推進」で、「市民参画の促進」、「地域コミュニティ活動の推進」、「生涯学習の推進」、「国際交流・地域間交流の促進」が続いている。

【重要度】

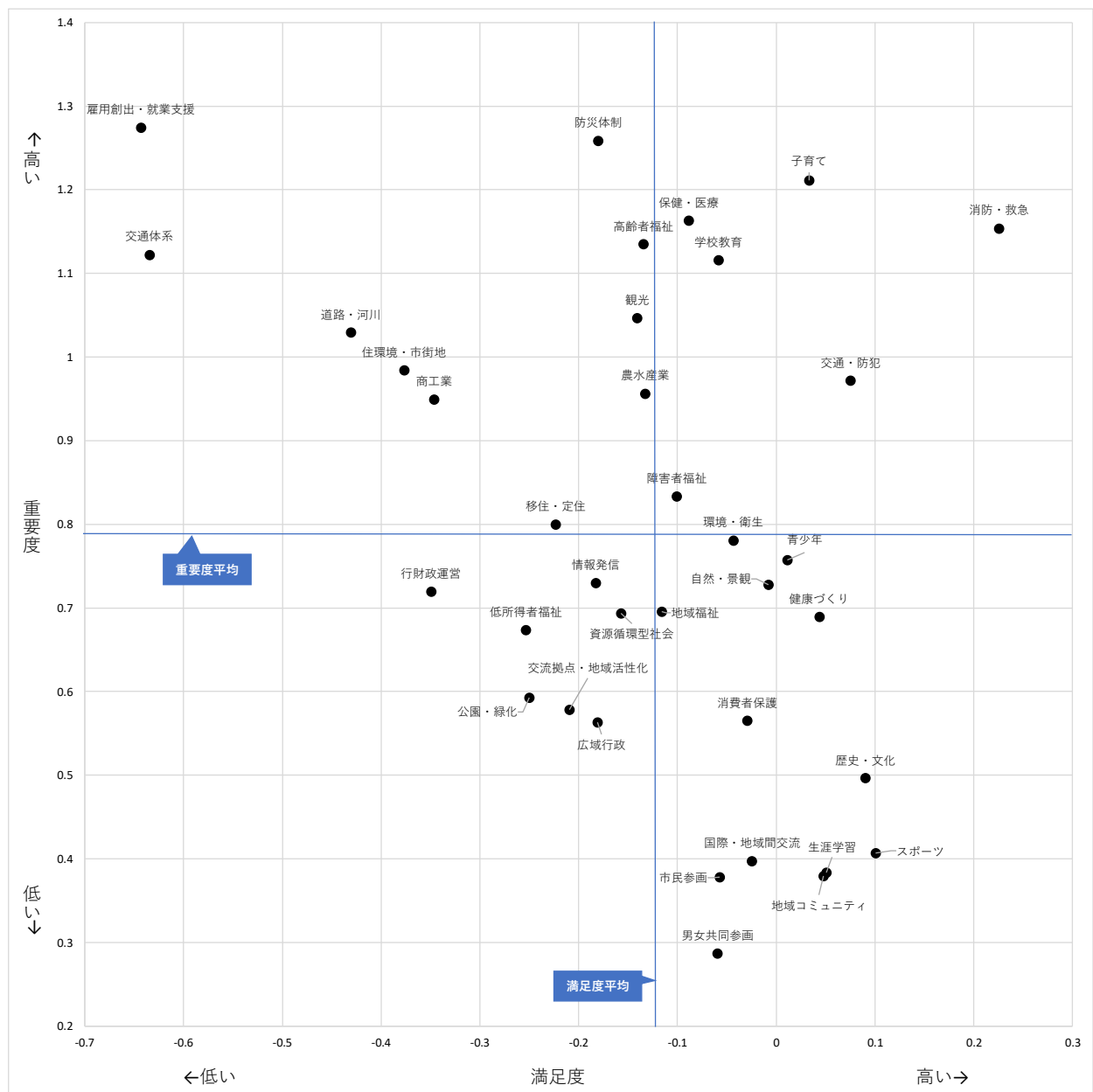
順位	施策名	満足度(指数)
1	新たな雇用の創出と就業支援の強化	1.27
2	防災体制の強化	1.26
3	子育て環境の充実	1.21
4	保健・医療体制の充実	1.16
5	消防・救急の充実	1.15
6	高齢者福祉の充実	1.13
7	交通体系の充実	1.12
8	学校教育の充実	1.12
9	観光の振興	1.05
10	道路環境の充実と河川整備の促進	1.03
11	住環境の充実と市街地の利便性向上	0.98
12	交通安全・防犯体制の強化	0.97
13	農水産業の振興	0.96
14	商工業の振興	0.95
15	障害者福祉の充実	0.83
16	移住・定住の促進	0.80
17	環境・衛生対策の充実	0.78
18	青少年の健全育成強化	0.76
19	情報発信力の強化	0.73
20	自然環境の保全と景観形成の促進	0.73
21	戦略的な行財政運営	0.72
22	地域福祉の推進	0.70
23	資源循環型社会の構築	0.69
24	健康づくりの推進	0.69
25	低所得者福祉の充実	0.67
26	公園の機能充実と緑化の推進	0.59
27	交流拠点施設を核とした地域活性化	0.58
28	消費者保護対策の推進	0.57
29	広域行政の推進	0.56
30	歴史の継承と文化の振興	0.50
31	スポーツの振興によるまちづくり	0.41
32	国際交流・地域間交流の促進	0.40
33	生涯学習の推進	0.38
34	地域コミュニティ活動の推進	0.38
35	市民参画の促進	0.38
36	男女共同参画の推進	0.29

②満足度と重要度の関係からみた評価

全施策の平均値と比べ、重要度が高く満足度が低い施策（散布図の左上の領域）については、今後重点的に実施していく必要がある。特に、「新たな雇用の創出と就業支援の強化」や「交通体系の充実」は平均値からの乖離が大きく、重視する必要がある。

重要度も満足度も高い施策（散布図の右上の領域）については、現状を維持・継続するとともに、まちの強みとしてアピールしていくことが考えられる。特に「消防・救急の充実」や「子育て環境の充実」があてはまる。

【満足度と重要度】

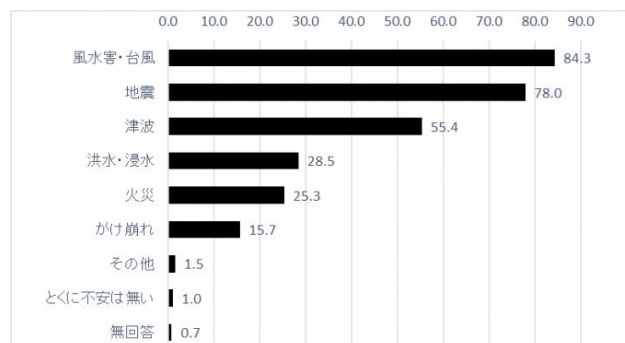


※散布図中の施策名は略称

(5) 館山市の防災について

問7. 住んでいる地域で不安を感じている災害

災害の不安では、「風水害・台風」(84.3%)と「地震」(78.0%)に回答が集中した。

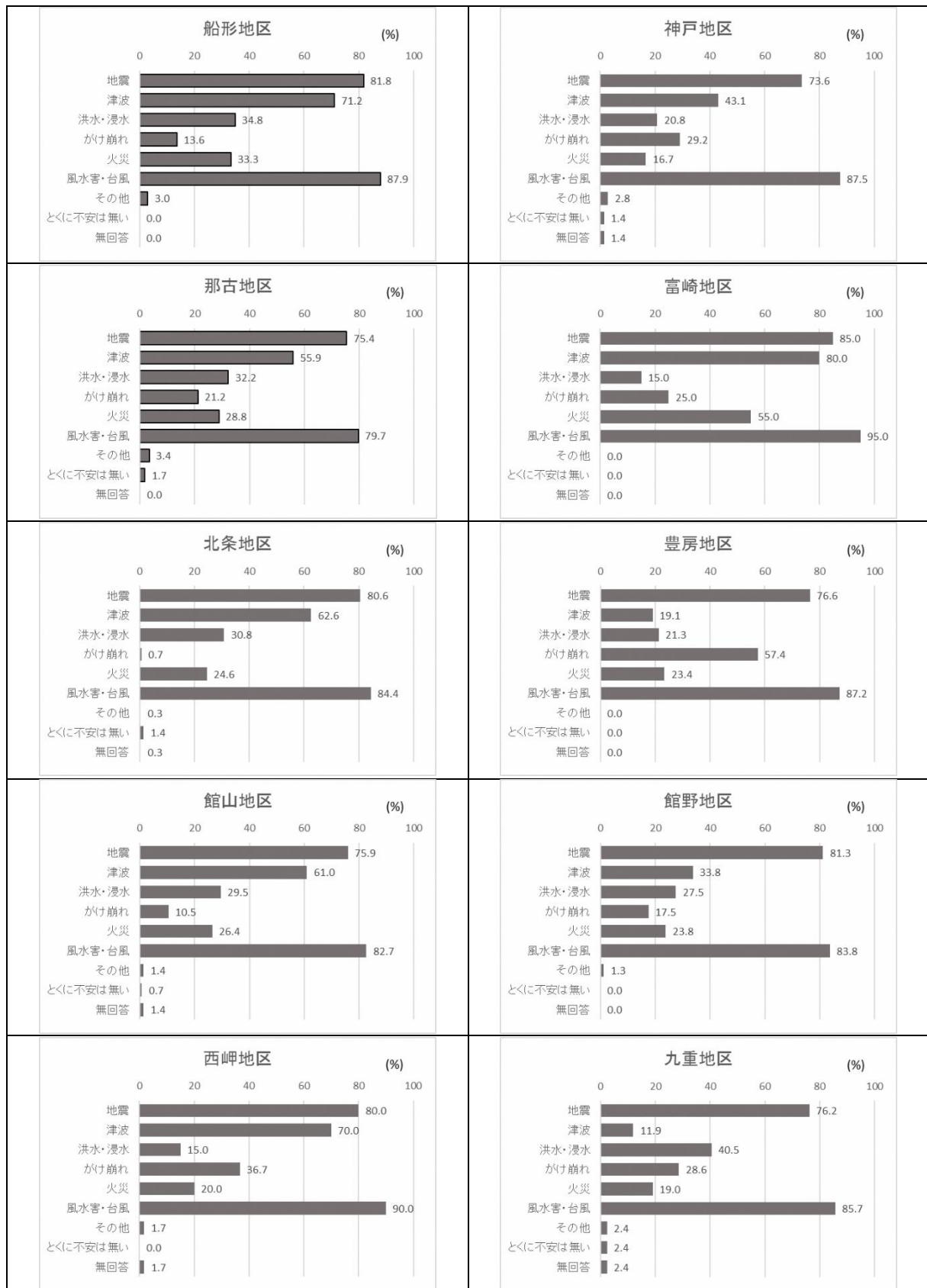


<地区別>

災害の不安を地区別にみると、「風水害・台風」と「地震」はどの地区でも割合が高いが、船形地区、那古地区、北条地区、館山地区、西岬地区、富崎地区では「津波」の割合も高くなっている。

また、富崎地区では「火災」(55.0%)、豊房地区では「がけ崩れ」(57.4%)に対する不安が高いなど、地区によって不安な災害に違いがみられる。

災害の不安（地区別）



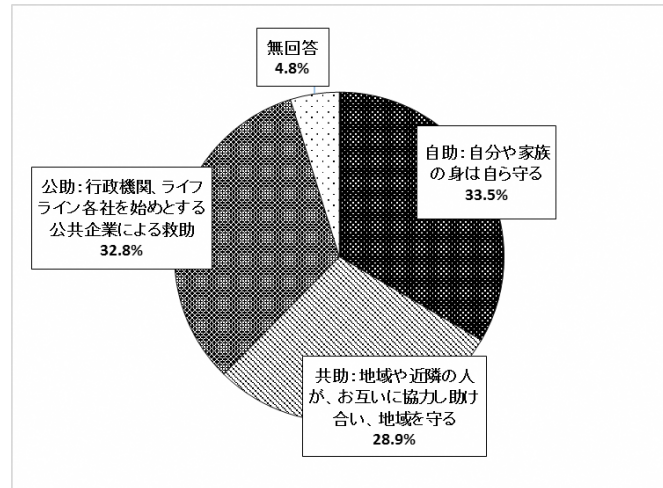
問 8. 災害に強いまちづくりのために重要な施策

災害に強いまちづくりで重要な施策は、「情報収集・情報伝達体制の強化」が最も割合が高く 69.2%、次いで「非常用物資（食料・飲料水・医薬品等）の備蓄の充実」が 57.6%、「国・県・他の自治体・企業等との連携強化（災害協定等）」が 42.9%、「自治体の対応力強化（避難所・BCP策定・職員体制）」が 40.3%となった。



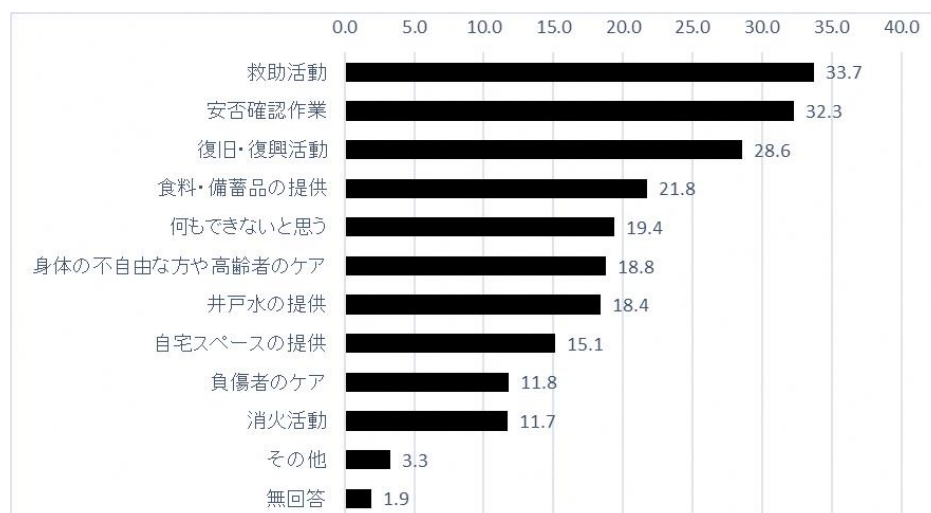
問 9. 災害の被害を軽減するために重点を置くべきこと

最も重点を置くべきは「自助」(33.5%)、次いで「公助」(32.8%) となったが、その差はわずかだった。「共助」は最も割合が低かった。



問 10. 住民どうしの助け合いが必要になったときにできること

災害時に自分にできる助け合い活動は「救助活動」が最も割合が高く 33.7%となり、「安否確認作業」が 32.3%と続いた。



<年代別>

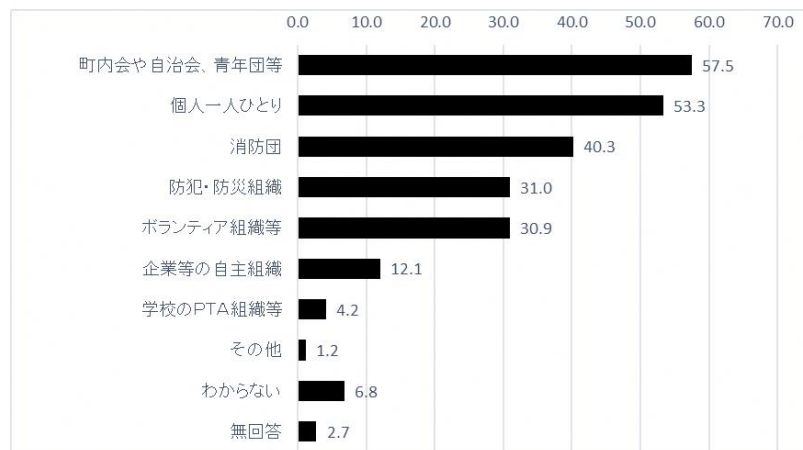
災害時に自分にできることを年代別にみると、70 歳代までは「復旧・復興活動」、「救助活動」、「安否確認作業」が上位になるが、80 歳代以上では「何もできないと思う」が最も割合が高くなる。

災害時に自分にできること（年代別）

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	復旧・復興活動	救助活動	食料・備蓄品の提供	安否確認作業	身体の不自由な方や高齢者
	61.5	34.6	30.8	26.9	26.9
20歳代	復旧・復興活動	救助活動	安否確認作業	負傷者のケア	身体の不自由な方や高齢者
	43.5	37.0	28.3	26.1	26.1
30歳代	復旧・復興活動	救助活動	安否確認作業	食料・備蓄品の提供	身体の不自由な方や高齢者
	50.0	40.0	40.0	24.6	23.1
40歳代	安否確認作業	救助活動	復旧・復興活動	食料・備蓄品の提供	自宅スペースの提供
	36.4	34.5	31.8	18.2	18.2
50歳代	救助活動	復旧・復興活動	安否確認作業	食料・備蓄品の提供	身体の不自由な方や高齢者
	41.9	37.2	35.1	19.6	18.9
60歳代	安否確認作業	救助活動	復旧・復興活動	井戸水の提供	何もできないと思う
	35.5	32.0	23.9	21.8	20.8
70歳代	救助活動	安否確認作業	何もできないと思う	食料・備蓄品の提供	井戸水の提供
	33.2	30.8	23.2	22.3	21.8
80歳代以上	何もできないと思う	食料・備蓄品の提供	救助活動	安否確認作業	井戸水の提供
	31.0	25.2	24.8	24.3	23.9

問 11. 災害時に地域の活動で重要な役割を果たすべきもの

災害時に重要な役割を果たすべきものは、「町内会や自治会、青年団等」が最も割合が高く 57.5%、次いで「個人一人ひとり」が 53.3%となった。



問 12. 災害時に重要な役割を果たすと思われる組織に入っていますか

災害時に重要な役割を果たすと思われる組織への加入状況は、「組織には入っていない」が最も高く 51.7%、次いで「町内会や自治会、青年団等」が 35.9%となった。

災害時に地域団体の活動を期待している一方、組織に加入していない割合は半数以上あり、最も期待されている「町内会や自治会、青年団等」でも加入割合は半数に満たない。

3 番目に期待されている「消防団」では加入割合は 4.5%と低かった。



※問 12. 「組織には入っていない」理由

「組織には入っていない」と回答した者の、組織に加入していない理由は、「高齢であり、組織に入ることが負担」が最も割合が高く 41.1%、次いで「住んでいる地域にどのような組織があるかわからない」が 33.0%、「仕事や家族の世話で忙しく、組織に入って活動する時間が作れない」が 27.0%などとなった。

「他人と関わるのがわずらわしい」や「関心がない」などの回答は低い割合だが、両者を合わせると 16.5%となった。

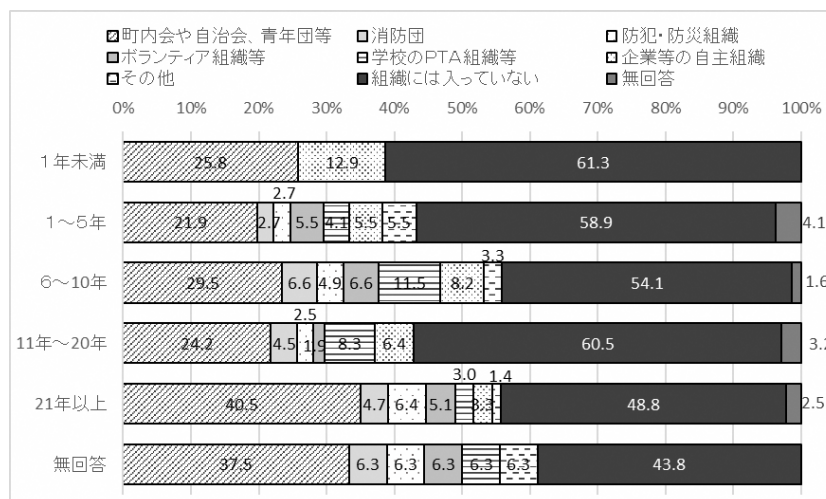


<居住年数別>

組織への加入状況を居住年数別にみると、「21 年以上」では「町内会や自治会、青年団等」が 40.5%と最も高くなっている。

一方、「1 年未満」、「1 年～5 年」、「11 年～20 年」では、「組織には入っていない」が 6 割前後と高くなっている。

組織への加入状況（居住年数別）



問 13. 災害時に備えてとっている対策

災害対策として行っていることでは、「携帯ラジオ、懐中電灯、ランタン、乾電池、医薬品などを準備している」が最も割合が高く 85.9%、次いで「食料や飲料水を準備している」が 55.0%となった。

「特に対策はとっていない」は 6.1%となった。

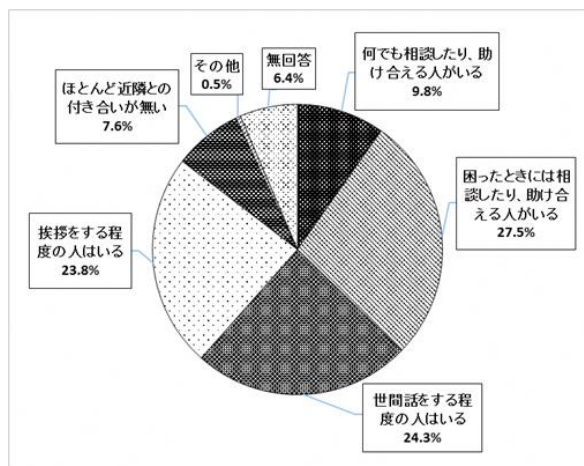


(6) 近所づきあい・地域コミュニティについて

問 14. 近隣との付き合いの程度

近隣との付き合いの程度では、「困ったときには相談したり、助け合える人がいる」(27.5%)、「世間話をする程度の人はいる」(24.3%)、「挨拶をする程度の人はいる」(23.8%) が同じくらいの割合となり、状況が分かれている。

「なんでも相談したり、助け合える人がいる」は 9.8%にとどまった。

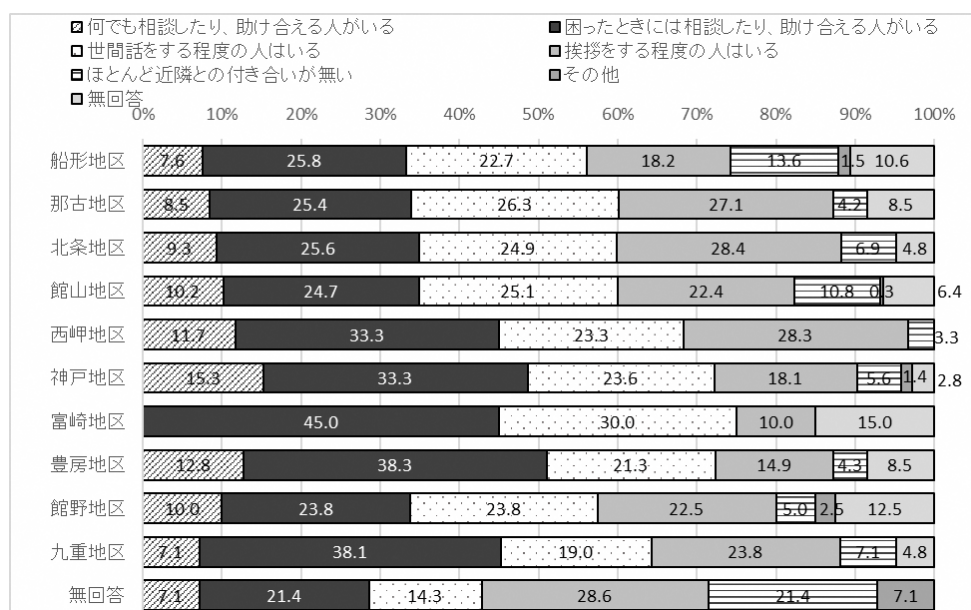


< 地区別 >

近隣との付き合いの程度を地区別にみると、西岬地区、神戸地区、富崎地区、豊房地区、九重地区では「なんでも相談したり、助け合える人がいる」や「困ったときには相談したり、助け合える人がいる」の割合が高く、特に豊房地区では両者を合わせると半数を超える。

一方、「ほとんど近隣との付き合いがない」の割合が高いのは船形地区 (13.6%)、館山地区 (10.8%) となった。

近隣との付き合い (地区別)

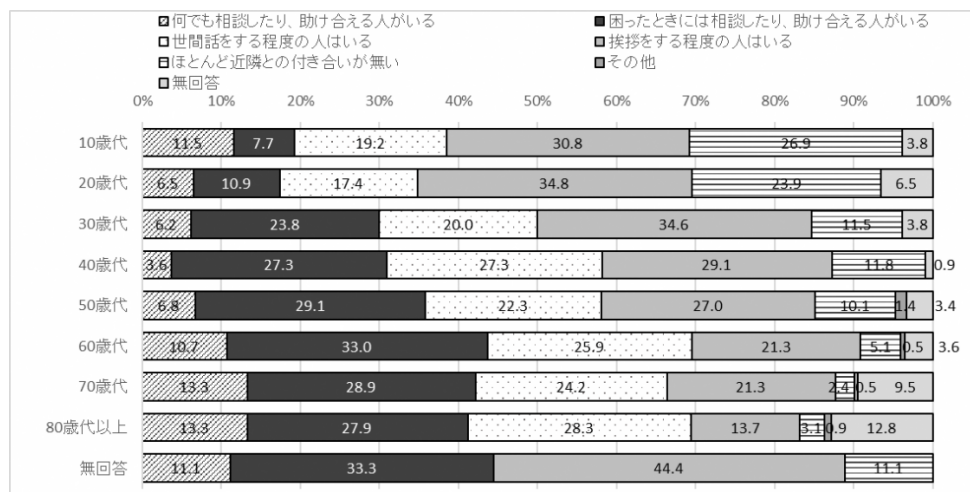


<年代別>

近隣との付き合いを年代別にみると、「なんでも相談したり、助け合える人がある」や「困ったときには相談したり、助け合える人がある」を合わせた割合は、10~20 歳代で、2 割弱、30 から 40 歳代で 3 割程度、60 歳代以上で 4 割程度と、年代が上がるにつれて高くなっている。

しかし、「世間話をする程度」は年代に関わらず 3 割前後みられ、「挨拶をする程度」は 60 歳代以上でも 2 割程度みられる。

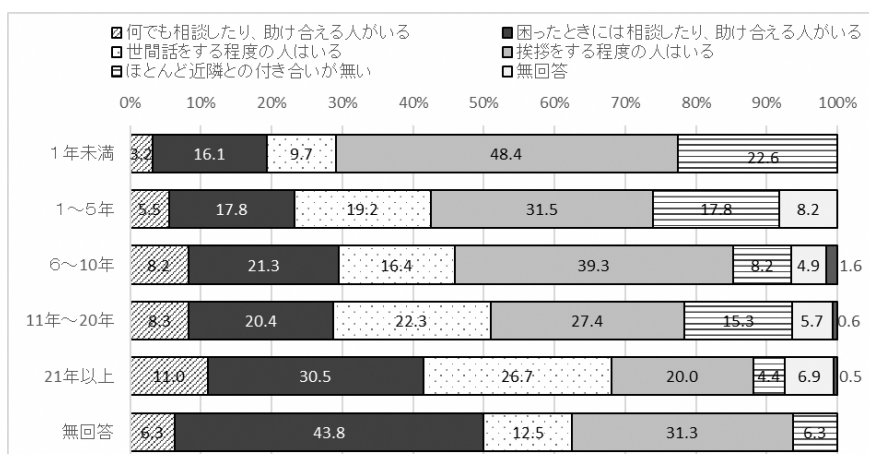
近隣との付き合い（年代別）



<居住年数別>

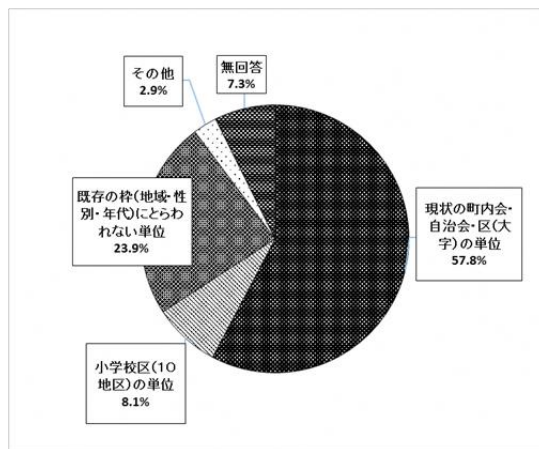
近隣との付き合いを居住年数別にみると、「なんでも相談したり、助け合える人がある」や「困ったときには相談したり、助け合える人がある」を合わせた割合は、居住年数が長くなるにつれて高くなる傾向にある。

近隣との付き合い（居住年数別）



問 15. 参加しやすいと思う地域コミュニティの範囲

参加しやすいと思う地域のコミュニティの範囲は「現状の町内会・自治会・区の単位」が最も割合が高く 57.8%、次いで「既存の枠(地域・性別・年代)にとられない単位」が 23.9%となった。

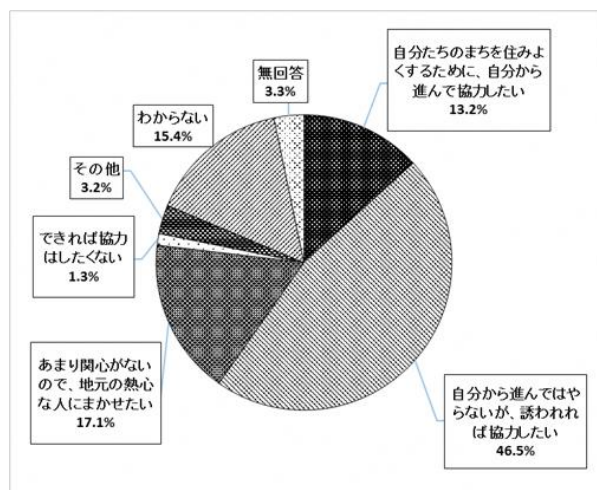


(7) 市民協働について

問 16. 「館山市市民協働条例」の制定について

まちづくりへの参加については、「自分からは進んではやらないが、誘われれば協力したい」が最も割合が高く 46.5%と半数近くを占めた。「自分たちのまちを住みよくするために、自分から進んで協力したい」との両者を合わせた”協力したい“は、6 割弱となった。

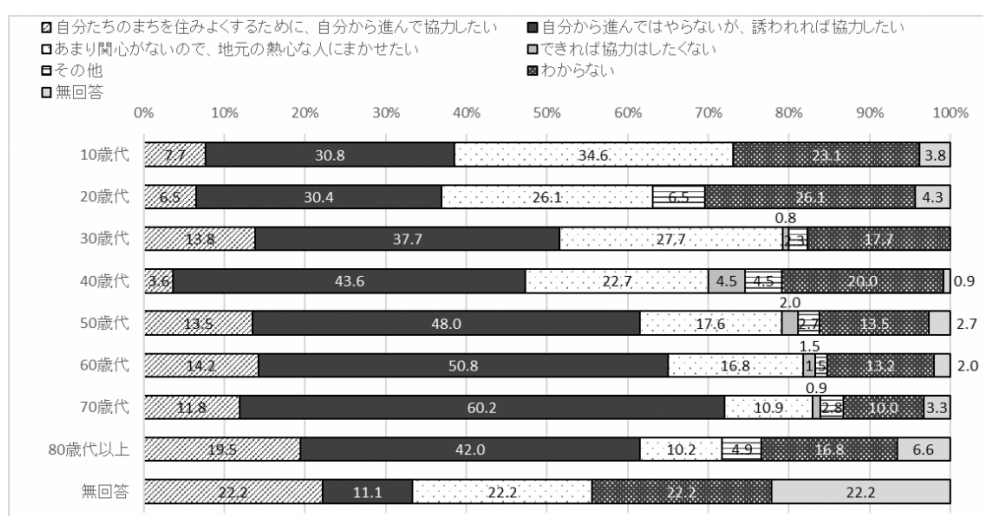
一方、「あまり関心がないので、地元の熱心な人にまかせたい」は 17.1%、「できれば協力したくない」は 1.3%とわずかだった。



<年代別>

まちづくりへの参加意向を年代別にみると、「協力したい」の割合は 10 から 20 歳代で 4 割弱、30~40 歳代は 5 割前後、50 歳代以上は 6 割以上となっている。「地元の熱心な人にまかせたい」は若い年代の割合ほど高い傾向となっている。

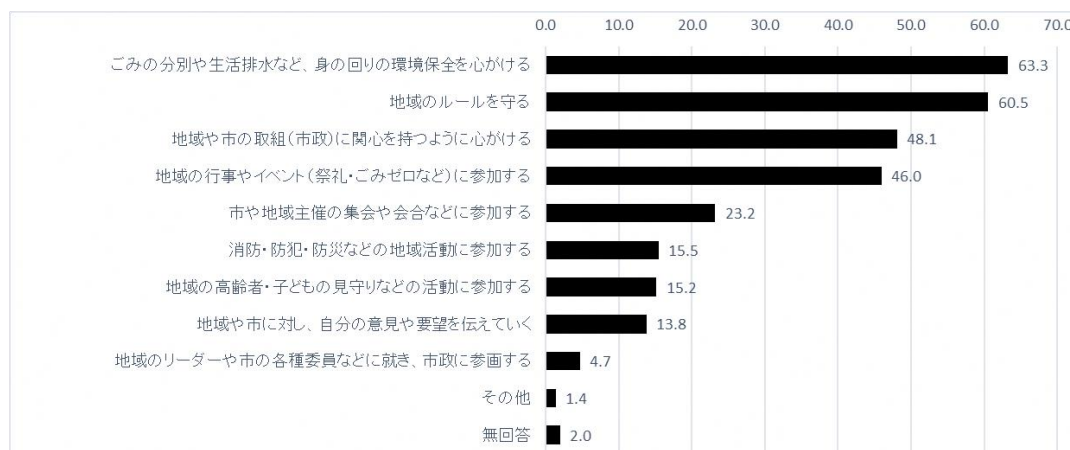
まちづくりへの参加意向（年代別）



※問 16. 協力していきたいと思う活動

協力していきたいと思う活動は、「ゴミの分別や生活排水など、身の回りの環境保全を心がける」(63.3%)、「地域のルールを守る」(60.5%) が6割を超え、「地域や市の取組(市政)に関心を持つように心がける」(48.1%) が約半数となった。

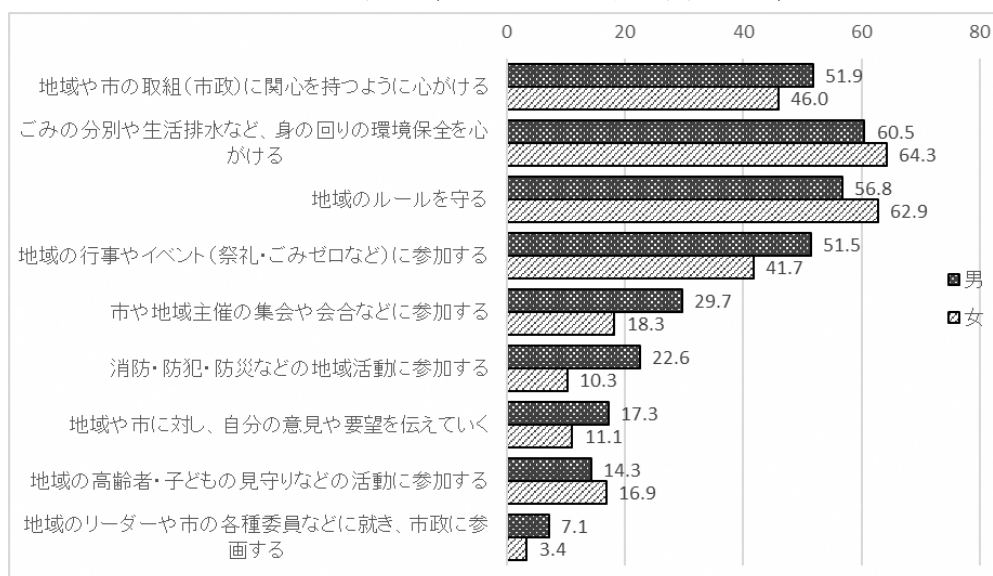
一方、「市や地域主催の集会や会合などに参加する」は2割程度みられるものの、「地域や市に対し、自分の意見や要望を伝えていく」(13.8%) や「地域のリーダーや市の各種委員などに就き、市政に参画する」(4.7%) などは少数だった。



<性別>

協力したい活動を性別にみると、女性では「ゴミの分別等環境保全」(64.3%) や「地域のルールを守る」(62.9%) に回答が集中したが、男性では「地域の行事やイベント(祭礼・ごみゼロなど)に参加する」や「市や地域主催の集会や会合などに参加する」、「消防・防犯・防災などの地域活動に参加する」、「自分の意見や要望を伝える」などの、積極的な参加活動において女性より割合が高くなった。

協力したい活動(性別：その他、無回答除く)



(8) 館山市の少子高齢化対策について

問 17. 若い世代が館山市に定住していくために必要なこと

若い世代の定住に必要なことでは、「企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大」が最も割合が高く 62.4%と、回答が集中した。

次いで「子育て支援や学校教育環境の充実」が 45.7%、「医療機関の充実」が 44.2%となった。



<年代別>

若い世代の定住に必要なことを年代別にみると、「企業誘致による就業機会・職業分野の拡大」はどの年代でも高い割合だが、「子育て支援や学校教育環境の充実」は 60 歳代までの年代では高い順位にあるが、70 歳代以上では順位が下がり、「医療機関の充実」が 2 番目に高くなる。

若い世代で上位になっている項目としては、「都市部へのアクセス向上」が 10 歳代で 6 割以上、20 歳代で 5 割近く、30~50 歳代で 4 割近くとなっている。

若い世代の定住に必要なこと（年代別）

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	子育て支援や学校教育環境の充実	大学のサテライトキャンパスや附属高校等の誘致	商工業やレクリエーション施設の充実
	61.5	46.2	42.3	42.3	42.3
20歳代	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	子育て支援や学校教育環境の充実	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上	購入・賃貸しやすい住宅や住宅地の整備	意欲のある若者に対する起業・創業支援
	56.5	54.3	47.8	39.1	30.4
30歳代	子育て支援や学校教育環境の充実	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	医療機関の充実	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上	購入・賃貸しやすい住宅や住宅地の整備
	67.7	50.0	48.5	37.7	33.8
40歳代	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	子育て支援や学校教育環境の充実	医療機関の充実	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上	安全・安心なまちづくりの充実
	64.5	58.2	41.8	35.5	30.0
50歳代	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	子育て支援や学校教育環境の充実	医療機関の充実	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上	意欲のある若者に対する起業・創業支援
	64.2	46.6	43.9	39.9	29.7
60歳代	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	子育て支援や学校教育環境の充実	農林水産業における後継者の育成支援	医療機関の充実	幹線道路や公共交通の整備による都市部へのアクセス向上
	71.1	45.7	44.7	44.7	34.0
70歳代	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	医療機関の充実	農林水産業における後継者の育成支援	安全・安心なまちづくりの充実	意欲のある若者に対する起業・創業支援
	65.9	46.0	39.8	38.4	36.5
80歳代以上	企業誘致等による就業機会・職業分野の拡大	医療機関の充実	意欲のある若者に対する起業・創業支援	農林水産業における後継者の育成支援	子育て支援や学校教育環境の充実
	59.3	48.2	38.9	36.3	35.0

問 18. 出産・子育て支援で重要な施策

出産子育て支援で重要な施策は、「急な病気にも対応できるような救急医療体制の確保・充実」が最も割合が高く 55.3%、次いで、「子育てしながら働きやすい職場環境の整備」が 52.1%、「経済的負担の軽減(保育料の軽減・医療費の助成・児童手当の充実・第3子以降の出産に対する助成等)」が 38.7%となった。

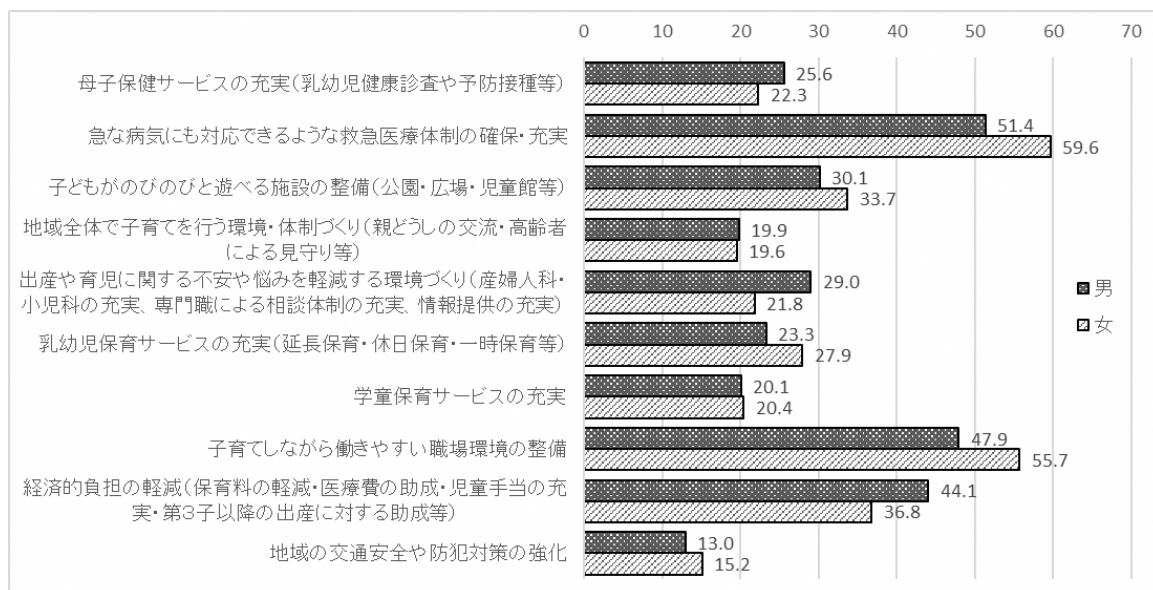


<性別>

出産・子育て支援で重要な施策を性別にみると、「経済的負担の軽減」では男性が女性の割合を大きく上回った。

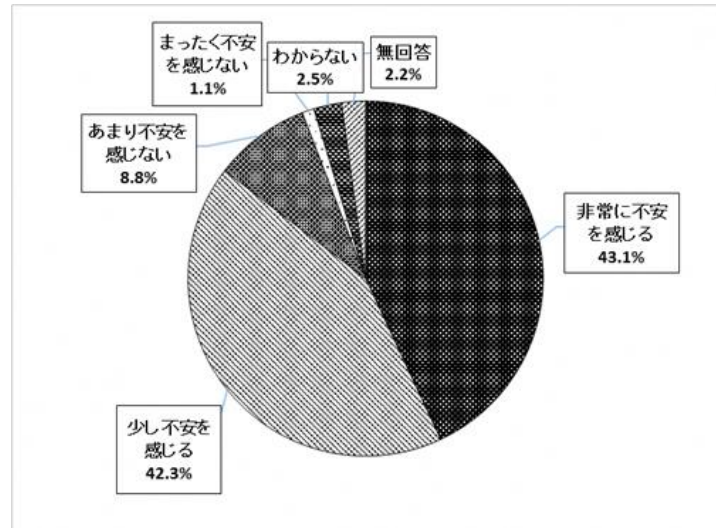
また、「救急医療体制の確保・充実」と「子育てしながら働きやすい職場環境の整備」は女性で半数を超えた。

出産・子育て支援で重要な施策（性別）



問 19. 高齢期になったときの生活について感じること

高齢期になったときの生活に対する不安では、「非常に不安を感じる」が43.1%、「少し不安を感じる」が42.3%で、両者を合わせた“不安を感じる”は85.4%となった。

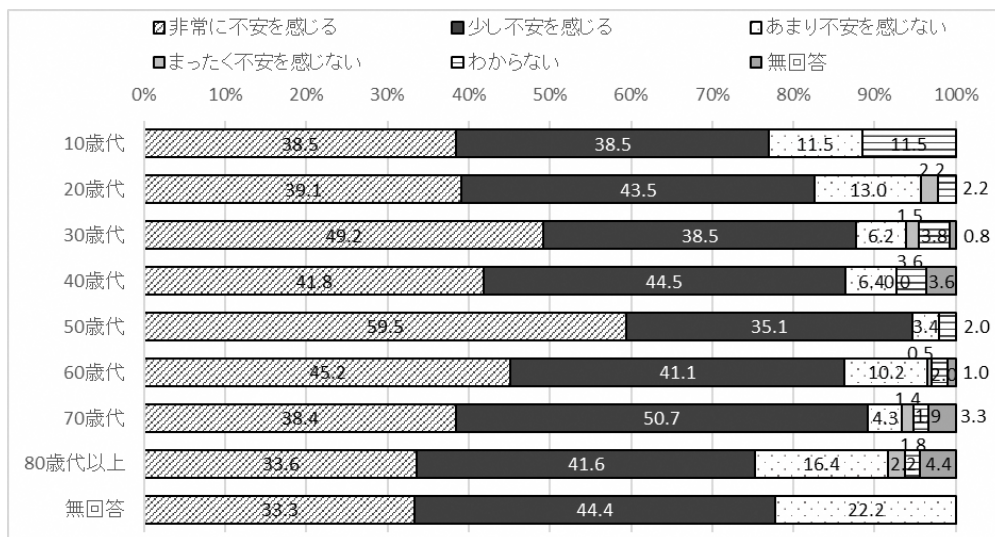


<年代別>

高齢期になったときの不安を年代別にみると、「非常に不安を感じる」は50歳代で最も高く、次いで30歳代、60歳代となり、10から20歳代でも4割近くが「非常に不安」と回答した。

「少し不安を感じる」も合わせた“不安を感じる”では50歳代（94.6%）と70歳代（89.1%）で高くなった。

高齢期になったときの生活について感じること（年代別）



※問 19. 高齢期になったときの生活で不安を感じていること

高齢期の不安要因では、「自分自身の健康・介護」が最も割合が高く 73.9%、次いで「移動手段の確保」が 43.6%、「生活費が足りなくなる」が 40.4%となった。



<年代別>

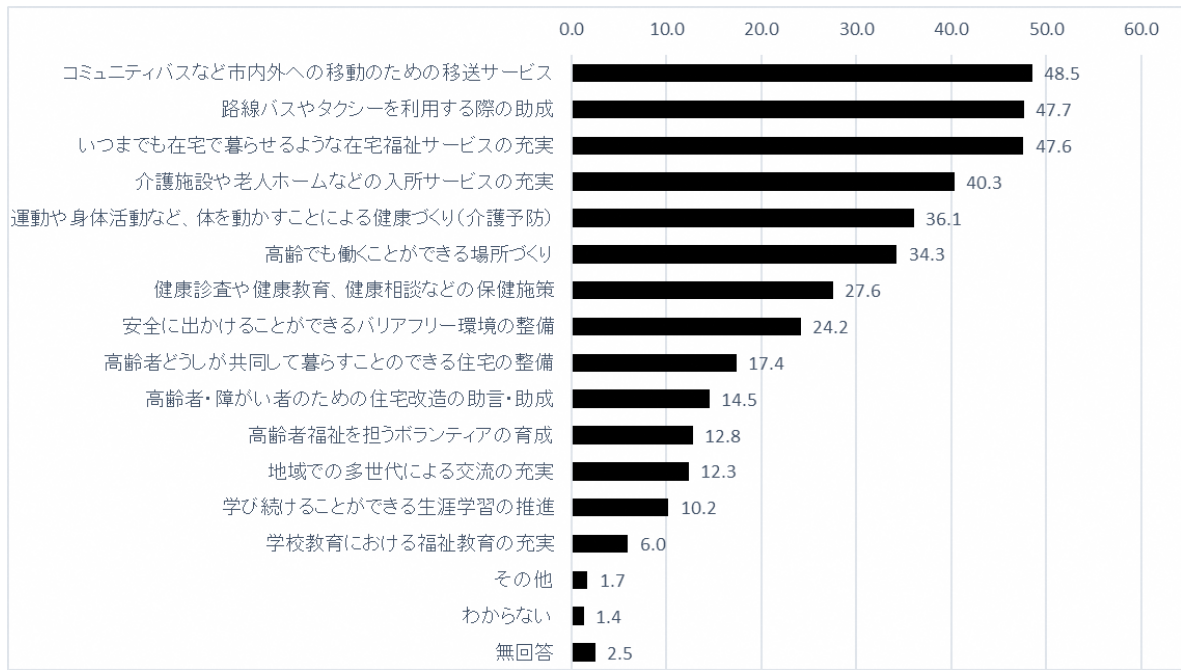
高齢期の不安要因を年代別にみると、「生活費が足りなくなる」は 20 から 50 歳代では半数を超えている。各年代比べても、上位の不安要因に格別の差は見られない。

高齢期の不安要因（年代別）

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	生活費が足りなくなる	自分自身の健康・介護	移動手段の確保(車の運転など)	家族の健康・介護	買い物など日々の生活
	45.0	40.0	35.0	15.0	15.0
20歳代	生活費が足りなくなる	自分自身の健康・介護	移動手段の確保(車の運転など)	買い物など日々の生活	家族の健康・介護
	57.9	47.4	39.5	26.3	23.7
30歳代	生活費が足りなくなる	自分自身の健康・介護	移動手段の確保(車の運転など)	家族の健康・介護	買い物など日々の生活
	57.0	56.1	39.5	28.9	25.4
40歳代	自分自身の健康・介護	生活費が足りなくなる	移動手段の確保(車の運転など)	家族の健康・介護	買い物など日々の生活
	67.4	57.9	44.2	31.6	18.9
50歳代	自分自身の健康・介護	生活費が足りなくなる	移動手段の確保(車の運転など)	家族の健康・介護	買い物など日々の生活
	68.6	60.0	39.3	32.1	28.6
60歳代	自分自身の健康・介護	移動手段の確保(車の運転など)	生活費が足りなくなる	家族の健康・介護	買い物など日々の生活
	79.4	46.5	34.7	34.1	29.4
70歳代	自分自身の健康・介護	移動手段の確保(車の運転など)	買い物など日々の生活	家族の健康・介護	生活費が足りなくなる
	83.5	50.5	38.3	34.0	27.7
80歳代以上	自分自身の健康・介護	移動手段の確保(車の運転など)	買い物など日々の生活	家族の健康・介護	生活費が足りなくなる
	87.1	42.9	36.5	34.7	18.8

問 20. 高齢者の施策で重要だと思うこと

重要な高齢者施策では、「コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス」(48.5%)、「路線バスやタクシーを利用する際の助成」(47.7%)の割合が高く、移動に関する支援が上位となっている。次いで、「いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実」(47.6%)が高い割合となった。



<年代別>

重要な高齢者施策を年代別にみると 30~50 歳代では「コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス」が 5 割以上と高く、60~80 歳代以上では、「いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実」が高い割合となった。

重要な高齢者施策（年代別）

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	安全に出かけることができるバリアフリー環境の整備	路線バスやタクシーを利用する際の助成	運動や身体活動など、体を動かすことによる健康づくり	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実	健康診査や健康教育、健康相談などの保健施策
	57.7	57.7	42.3	42.3	38.5
20歳代	路線バスやタクシーを利用する際の助成	運動や身体活動など、体を動かすことによる健康づくり	高齢でも働くことができる場所づくり	安全に出かけることができるバリアフリー環境の整備	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス
	47.8	37.0	32.6	32.6	32.6
30歳代	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス	高齢でも働くことができる場所づくり	路線バスやタクシーを利用する際の助成	運動や身体活動など、体を動かすことによる健康づくり	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実
	50.0	47.7	41.5	37.7	37.7
40歳代	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス	高齢でも働くことができる場所づくり	路線バスやタクシーを利用する際の助成	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実
	58.2	55.5	55.5	40.9	36.4
50歳代	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス	高齢でも働くことができる場所づくり	路線バスやタクシーを利用する際の助成	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実
	58.1	50.7	47.3	41.2	34.5
60歳代	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス	路線バスやタクシーを利用する際の助成	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実	運動や身体活動など、体を動かすことによる健康づくり
	52.8	49.2	47.7	39.6	39.1
70歳代	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実	路線バスやタクシーを利用する際の助成	運動や身体活動など、体を動かすことによる健康づくり
	62.1	48.8	47.4	41.7	37.4
80歳代以上	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実	路線バスやタクシーを利用する際の助成	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス	運動や身体活動など、体を動かすことによる健康づくり
	58.8	51.8	43.8	41.6	38.1

(9) 行財政改革について

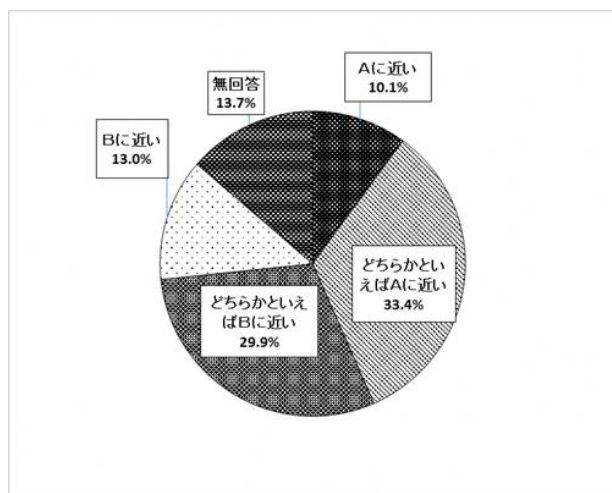
問 21. 行財政改革を引き続き推進するために必要なこと

行政改革を引き続き推進するために必要なことでは、「施設や事務事業の見直しを行い、施設や事業の廃止・縮小または改善をする」が最も割合が高く 22.0%、次いで「行政サービスの民営化・委託など」が 14.3%となった。



問 22. 行政サービスと市民の負担のバランスについて

行政サービスと負担のバランスでは、“A サービス充実のためには、負担が増えても止むを得ない”が 43.5%、“B 負担を増やしてまで、サービスの充実を図る必要はない”が 44.9%と回答はほぼ二分した。

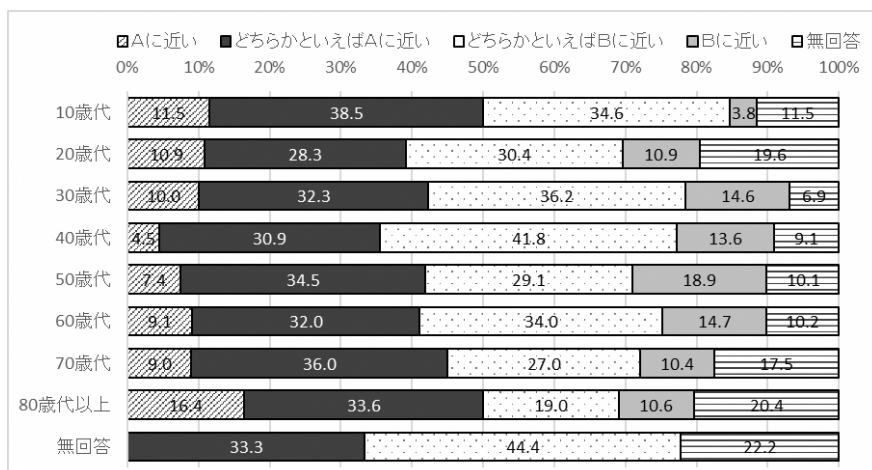


<年代別>

行政サービスと負担のバランスを年代別に比較すると、“サービス充実のためには、負担が増えてもやむを得ない”は10歳代と80歳代以上が半数となった。

また、「負担を増やしてまで、サービスの充実を図る必要はない」は、40歳代で最も割合が高く55.4%、次いで30歳代で50.8%と半数を超えた。

行政サービスと負担のバランス（年代別）



(10) 広報・情報発信について

問 23. 市の情報の入手方法

市の情報の入手方法では、「だん暖たてやま」が最も割合が高く 83.0%、次いで「回覧板」が 51.3%となった。「携帯電話・タブレット端末」(17.1%)、「市のホームページ」(13.4%)、市の SNS (10.0%) などの電子媒体は割合が低かった。



< 年代別 >

市の情報の入手方法を年代別にみると、「だん暖たてやま」はどの年代でも割合が高くなっている。

また、10~20 歳代では「市の SNS」が 3 割を超えて 2 位に、そのほかの年代では「回覧板」が 2 位になっている。

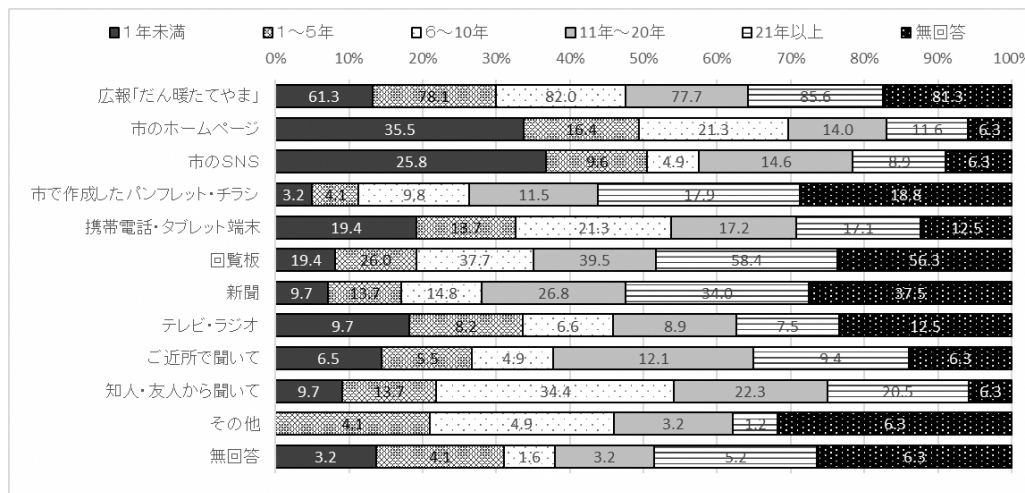
市の情報入手方法（年代別）

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	広報「だん暖たてやま」 50.0	市の SNS 34.6	回覧板 34.6	知人・友人から聞いて 30.8	携帯電話・タブレット端末 26.9
20歳代	広報「だん暖たてやま」 47.8	市の SNS 30.4	知人・友人から聞いて 26.1	携帯電話・タブレット端末 23.9	新聞 21.7
30歳代	広報「だん暖たてやま」 75.4	回覧板 32.3	知人・友人から聞いて 29.2	携帯電話・タブレット端末 23.8	新聞 23.1
40歳代	広報「だん暖たてやま」 90.0	回覧板 40.9	知人・友人から聞いて 25.5	新聞 21.8	市のホームページ 20.0
50歳代	広報「だん暖たてやま」 85.1	回覧板 48.0	新聞 25.0	市のホームページ 18.9	知人・友人から聞いて 17.6
60歳代	広報「だん暖たてやま」 89.8	回覧板 58.9	新聞 23.9	携帯電話・タブレット端末 18.3	市で作成したパンフレット・チラシ 18.3
70歳代	広報「だん暖たてやま」 87.2	回覧板 65.9	新聞 37.4	知人・友人から聞いて 19.9	市で作成したパンフレット・チラシ 19.4
80歳代以上	広報「だん暖たてやま」 84.5	回覧板 60.6	新聞 42.9	市で作成したパンフレット・チラシ 26.5	知人・友人から聞いて 18.6

<居住年数別>

市の情報の入手方法を居住年数別にみると、「1 年未満」では「市のホームページ」(35.5%)、「市の SNS」(25.8%) が最も割合が高くなっている。

市の情報入手方法（居住年数別）



問 24. 希望する市の情報の入手方法

市の情報を入手したい手段・媒体では、「紙媒体で自宅に届くもの」が最も割合が高く 72.3%と、回答が集中した。



<年代別>

市の情報を入手したい手段・媒体を年代別にみると 10~30 歳代では、「電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）」が最も割合が高く、40 歳代以上では「紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）」の割合が最も高い。

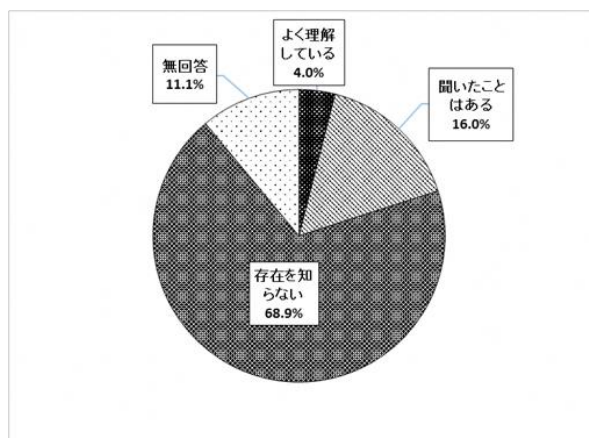
情報を入手したい手段・媒体（年代別）

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	無回答
	80.8	38.5	19.2	15.4	3.8
20歳代	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	無回答
	73.9	32.6	23.9	6.5	4.3
30歳代	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	その他
	62.3	58.5	34.6	5.4	1.5
40歳代	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	無回答
	60.0	52.7	33.6	6.4	3.6
50歳代	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	その他
	62.8	51.4	27.7	10.8	4.1
60歳代	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	無回答
	81.7	30.5	16.8	15.2	2.5
70歳代	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	無回答	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）
	85.8	15.2	14.7	8.5	8.1
80歳代以上	紙媒体で、自宅に届くもの（広報「だん暖たてやま」、回覧板）	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの（パンフレット・チラシ）	無回答	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの（ホームページ・SNS）	電子媒体で、定期的に配信されるもの（メールマガジン等）
	83.6	14.6	11.9	11.1	8.4

(11) 新たな時代の潮流について

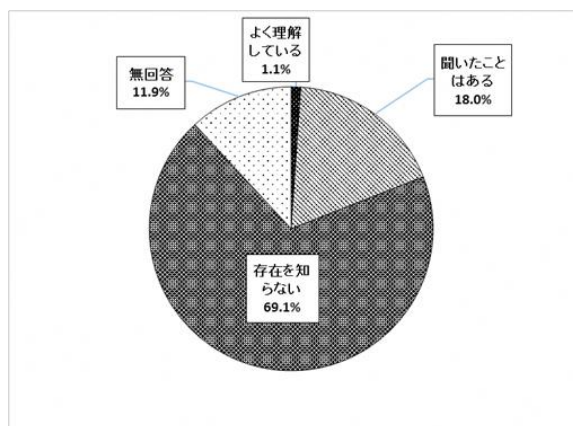
問 25. 用語の「認知度」【S D G s (エスディーゼーズ)】

「S D G s」の認知度では「存在を知らない」が68.9%と最も高い割合となった。



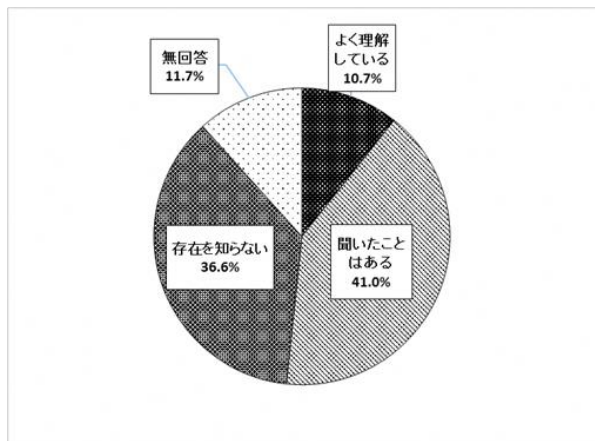
問 25. 用語の「認知度」【S o c i e t y 5 . 0 (ソサエティ5 . 0)】

「S o c i e t y 5.0」の認知度では「存在を知らない」が69.1%と最も高い割合となった。



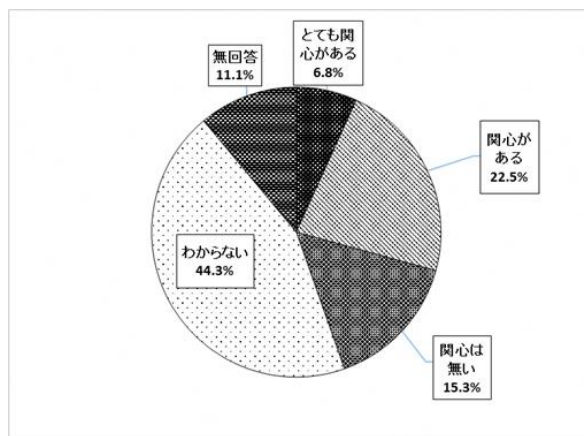
問 25. 用語の「認知度」【女性活躍の推進】

「女性活躍の推進」の認知度では「聞いたことはある」が41.0%、「存在を知らない」が36.6%と同じくらいの割合となった。



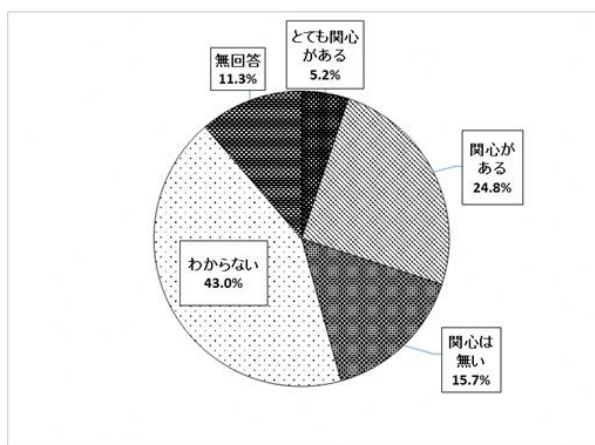
問 25. 用語の「関心度」【S D G s（エスディーゼーズ）】

「S D G s」の関心度では「とても関心がある」（6.8%）、「関心がある」（22.5%）を合わせた“関心がある”（29.3%）が「関心はない」（15.3%）を上回った。



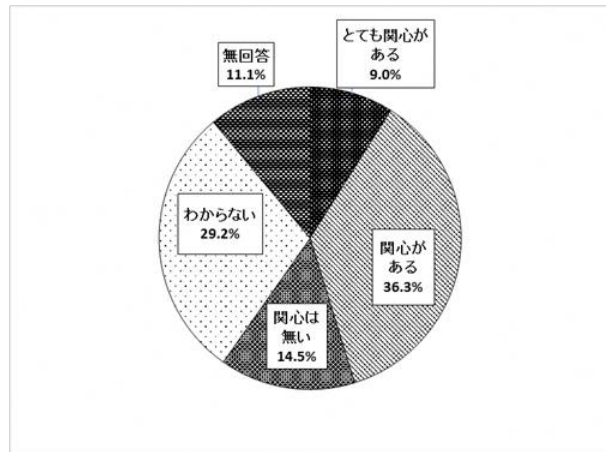
問 25. 用語の「関心度」【S o c i e t y 5 . 0（ソサエティ5.0）】

「S o c i e t y 5.0」の関心度では「とても関心がある」（5.2%）、「関心がある」（24.8%）を合わせた“関心がある”（30.0%）が「関心はない」（15.7%）を上回った。



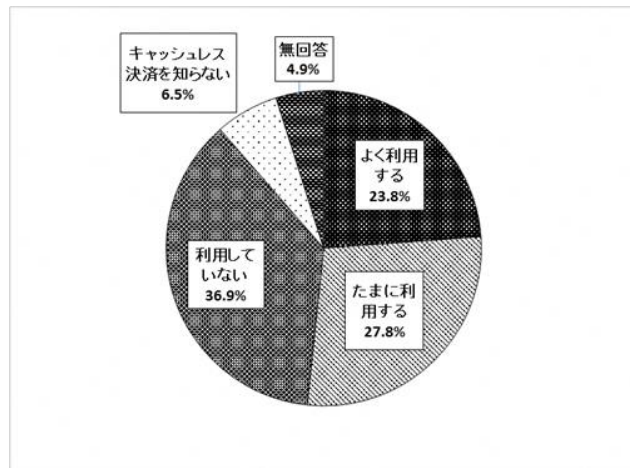
問 25. 用語の「関心度」【女性活躍の推進】

「女性活躍の推進」の関心度では「とても関心がある」（9.0%）、「関心がある」（36.3%）を合わせた“関心がある”（45.3%）が「関心はない」（14.5%）を上回った。



問 26. キャッシュレス決済の利用程度

キャッシュレス決済の利用程度は「よく利用する」と「たまに利用する」を合わせた“利用する”の割合が 51.6%と半数を超えた。



※問 26. 利用しているキャッシュレス決済方法

利用しているキャッシュレス決済方法としては、「クレジットカード」が 78.4%と最も高く、次いで「電子マネー（Suica、WAON など）」が 52.3%となった。

